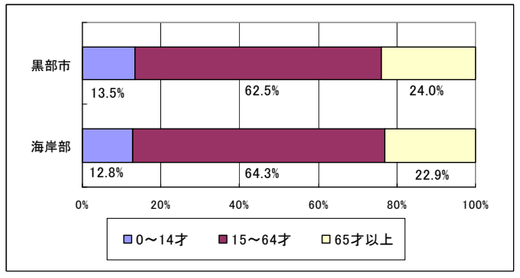
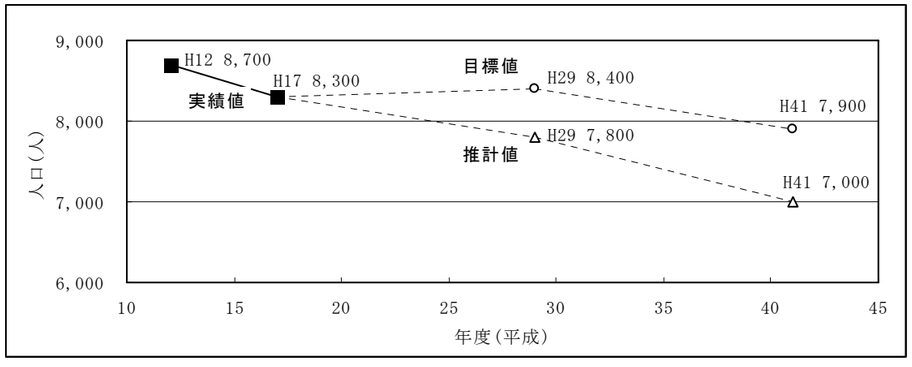
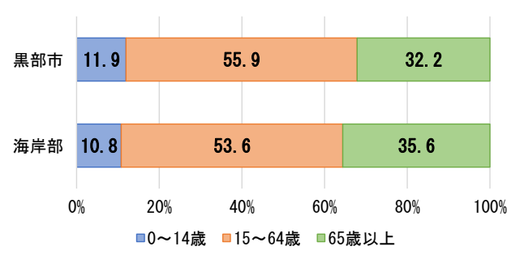
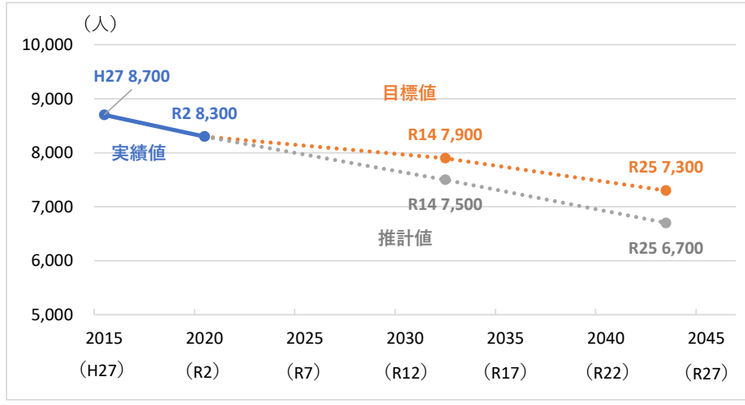
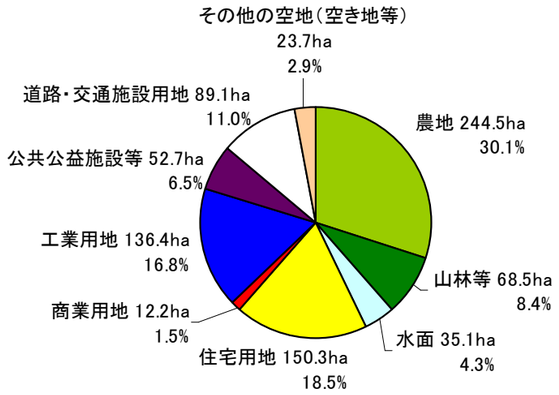
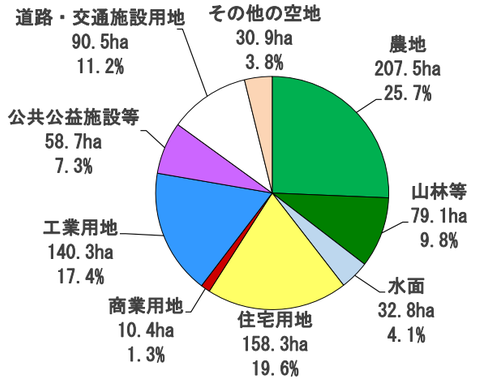
No	現　行	見直し案
	６－２　海岸部 （１）地域の概況	６－２　海岸部 （１）地域の概況
1	１）　地形・立地 本地域は、黒部川扇状地の扇端部に位置し、ＪＲ北陸本線と交差するまでの富山地方鉄道本線の南西側区間、国道８号バイパス及びＪＲ北陸本線を東の境とし、富山湾との間に広がった、生地、石田、村椿地区からなる概ね面積 810ha の地域であり、隣接する大規模工業地も含む地域です。	１）　地形・立地 本地域は、黒部川扇状地の扇端部に位置し、あいの風とやま鉄道と交差するまでの富山地方鉄道の南西側区間、国道８号入善黒部バイパス及びあいの風とやま鉄道を東側の境界とすることを基本とし、富山湾との間に広がった、生地、石田、村椿地区からなるおおむね 810ha の地域であり、隣接する大規模工業地も含む地域です。
2	２）　歴史 明治 23 年に町村制が敷かれ、生地町と石田村、村椿村が生まれました。生地・石田地区を中心に漁業のまちとして栄えてきました。石田港は北海道開拓時には、米穀を移出する一方でニシンや魚肥等を移入し、北海道との取引などにより賑わいました。 また、世界規模で事業を展開する大手製造業の拠点となる事業所が地域内に設けられ、発展を遂げています。	２）　歴史 明治 23 年に町村制が敷かれ、生地町と石田村、村椿村が生まれ、生地・石田地区を中心に漁業のまちとして栄えてきました。石田港は、北海道開拓時には米穀を移出する一方で、ニシンや魚肥等を移入し、北海道との取引などでにぎわいました。 また、世界規模で事業を展開する大手製造業の拠点となる事業所が地域内に設けられ、発展を遂げています。
3	３）　人口・世帯数 密集した市街地から、敷地面積や道路幅員などにゆとりを求めて、若年層を中心に人口が周辺等へ流出する状況が見受けられ、これが地域の人口減少と高齢化・核家族化を一層高める要因ともなっています。 人口・世帯数等の推移 平成12年：人口(人) 8,700／世帯数(世帯) 2,710／人口密度(人/ha) 10.8／平均世帯人員(人/世帯) 3.2／人口推移(H12=100) 100 平成17年：人口(人) 8,300／世帯数(世帯) 2,770／人口密度(人/ha) 10.2／平均世帯人員(人/世帯) 3.0／人口推移(H12=100) 95 年齢階層別人口割合(平成 17 年)  人口の推移及び推計・目標値  	３）　人口・世帯数 本地域では、人口が減少し、世帯数が増加しているため、平均世帯人員は減少しており、核家族化の進行がうかがえます。また、人口密度が低下しているとともに、市街地での空き家の分布も多く、市街地の空洞化などが懸念されます。このほか、国立社会保障・人口問題研究所の令和５年の人口推計では、目標年次の令和 25 年に約 6,700 人まで減少することが予測されています。 令和２年の年齢階層別人口割合については、15 歳未満が 10.8%、65 歳以上が 35.6%であり、本市平均と比べ、少子高齢化が進んでいます。 人口・世帯数等の推移 平成27年：人口(人) 8,700／世帯数(世帯) 3,120／人口密度(人/ha) 10.7／平均世帯人員(人/世帯) 2.8／人口推移(H27=100) 100 令和２年：人口(人) 8,300／世帯数(世帯) 3,220／人口密度(人/ha) 10.2／平均世帯人員(人/世帯) 2.6／人口推移(H27=100) 95 年齢階層別人口割合(令和２年)  人口の推移及び推計・目標値  推計値：国立社会保障・人口問題研究所の人口推計（日本の地域別将来推計人口（令和５年推計））より算出 目標値：黒部市人口ビジョン（令和２年改訂版）の目標値を参考に算出

No	現　行	見直し案
4	４）　産業 生地地区を中心に漁業が盛んに行われており、収穫された魚介類の販売（直販）等も活発となっています。 市街地周辺は水稲を中心とした農業地で、ほ場整備事業等により大区画化が進んでいますが、近年は農業従事者の減少・高齢化などがみられます。 世界的企業の大規模工場ではファスナーやアルミ製品、工業用機械の製造が行われています。	４）　産業 生地地区を中心に漁業が行われており、魚の駅「生地」などでは、収穫された魚介類が販売（直販）されています。 市街地周辺は、水稲を中心とした農業地で、ほ場整備事業等により大区画化が進んでいますが、近年は農業従事者の減少・高齢化などが見られます。 世界的企業の大規模工場では、ファスナーやアルミ製品、工業用機械の製造が行われています。
5	５）　観光・交流 生地地区では、漁師町ならではの風情があるまちなみ景観と、豊富に湧き出る名水百選「黒部川扇状地湧水群」の清水などを楽しむ「まち歩き観光」が人気を集めています。また石田地区では、キャンプ場や釣桟橋、パークゴルフ場が一体的に整備され、海辺でのレジャーに市内外から多数の人が訪れています。 世界的企業の大工場では、平成 18 年より産業観光として、ものづくりの紹介がされており、海岸地域の観光と工場見学を組み合わせた新しい取り組みも行われるなど、地域の観光客は年々増加傾向にあります。しかし観光客向けの物販店や飲食店、駐車場などの施設に加え、観光ボランティアなどの体制が追いついていない面も現れています。	５）　観光・交流 生地地区では、漁師町ならではの風情があるまちなみ景観と、豊富に湧き出る名水百選「黒部川扇状地湧水群」の清水などを巡るまち歩きを楽しむことができます。また、石田地区では、キャンプ場や釣桟橋、パークゴルフ場が一体的に整備され、海辺でのレジャーに市内外から多数の人が訪れています。 このほか、世界的企業の工場では、工場見学ツアーをはじめ、市内の施設や観光地めぐりを組み合わせた取組が行われています。また、観光客は近年、新型コロナウイルスの影響により減少していましたが、新たな観光・にぎわい拠点として、令和４年に道の駅ＫＯＫＯくろべが整備されたほか、富山湾岸サイクリングのコースに設定されたことなどにより、にぎわいを取り戻す可能性を秘めています。 また、生地地区や村椿地区では、観光施設などを有機的につなぐためのレンタサイクルが整備されています。 一方、生地地区や石田地区の市街地では、観光客向けの物販店、飲食店、駐車場などの施設や、観光ボランティアなどの不足が懸念されます。
6	６）　交通 平成８年に富山県による湾岸道路構想が発表され、海岸部の各地区を結ぶ主要地方道魚津生地入善線の工事が一部行われているほか、国道８号バイパスが計画決定され、順次整備が進んでいます。また、新幹線新駅へ連絡する路線として都市計画道路新駅中新線が整備中ですが、国道８号バイパスより海岸部側は、計画がなされていません。 石田地区で計画決定された都市計画道路は、３路線とも未整備となっています。また、富山地方鉄道本線との交差はすべて平面踏切で、立体交差する路線はありません。 なお、生地地区では都市計画道路は、計画決定されていません。 公共交通としては、ＪＲ北陸本線や富山地方鉄道本線、生地地区を循環する地鉄バスにより地域内外を連絡していますが、モータリゼーションの進展等に伴い、利用者は近年、いずれも停滞・減少傾向にあります。	６）　交通 平成８年に富山県による湾岸道路構想が発表され、海岸部の各地区を結ぶ主要地方道魚津生地入善線の工事が一部行われているほか、国道８号入善黒部バイパスが全線開通しています。また、黒部宇奈月温泉駅へ連絡する路線として（都）新駅中新線が整備中ですが、国道８号入善黒部バイパスから海岸部は、線形や事業手法等について具体的に定まっていない状況にあります。 石田地区で計画決定された都市計画道路については、未整備区間があります。 生地地区では、都市計画道路は計画決定されていません。 公共交通については、あいの風とやま鉄道や富山地方鉄道、路線バス・コミュニティ交通が地域内外を連絡しているものの、モータリゼーションの進展や新型コロナウイルスの影響等により、近年、利用者数は減少傾向を示しています。
7	７）　土地利用 生地・石田地区に市街地が形成され、店舗も立地していますが、大半は店舗併用住宅であり、住宅用地となっています。市街地周辺は、水田が広がり、地域の概ね３割を農地が占めています。また、村椿地区等に大規模な工場が立地しているため、工業用地の割合が多くなっているほか、石田地区ではキャンプ場として活用している海岸の防風林などがみられるため、山林等の割合も多くなっています。 公共施設としては黒部漁港や石田漁港のほか、石田フィッシャリーナや黒部市総合公園などのレクリエーション施設が立地していることが特徴となっています。	７）　土地利用 生地地区や石田地区に市街地が形成され、店舗も立地していますが、店舗併用住宅が多く、大半は住宅用地となっています。また、市街地内において、空き家・空き地等が発生しています。 市街地周辺は、水田が広がり、地域のおおむね３割弱を農地が占めています。 村椿地区等に大規模な工場が立地しているため、工業用地の割合が多くなっているほか、村椿地区から石田地区にかけて海岸防風林が見られます。 公共公益施設等としては、黒部漁港や石田漁港のほか、石田フィッシャリーナや総合公園などのレクリエーション施設が立地していることが特徴となっています。 一方、新たな観光・にぎわい拠点として整備された道の駅ＫＯＫＯくろべ周辺や、地元と民間企業が連携したまちづくり構想が進む生地駅周辺においては、適切な土地利用が求められます。

<table>
<tr><th>No</th><th>現　行</th><th>見直し案</th></tr>
<tr><td></td><td>土地利用の状況

</td><td>土地利用の状況

</td></tr>
<tr><td>8</td><td>８）　自然・景観等
美しい日本海に面する本地域は、清冽な清水や新鮮な魚介類、海水浴場や石田フィッシャリーナなどのマリンスポーツ、風情のある漁村集落、さらには産業観光、防風林を活かしたキャンプ場、黒部川や立山連峰の景観など、優れた観光資源を有しています。
一方、市街地は、木造住宅が密集しているため、火災による類焼、高波、津波などの危険性が高い環境にあります。また近年、冬期を中心に地下水位の低下がみられます。</td><td>８）　自然・景観等
美しい日本海に面する本地域は、清冽な清水や新鮮な魚介類、海水浴場や石田フィッシャリーナなどのマリンスポーツ、風情のある漁村集落、産業観光、防風林を活かしたキャンプ場、黒部川や立山連峰の景観など、優れた観光資源を有しています。
また、道の駅ＫＯＫＯくろべ周辺においては、新たな観光・にぎわい拠点として、良好な景観形成が求められます。
一方、市街地は、木造住宅が密集しているため、火災による類焼、高波、津波などの危険性が高い環境にあります。</td></tr>
<tr><td>9</td><td>海岸部の主な施設・資源等
<table><tr><td>交通環境</td><td>【公共交通】ＪＲ生地駅、電鉄石田駅、地鉄バス（生地循環）
【道路網】県道魚津生地入善線　県道若栗生地線</td></tr><tr><td>主要施設</td><td>【公共施設】黒部漁港　石田漁港　石田フィッシャリーナ
石田浜海水浴場　グリーンパークおおしま　黒部市総合公園
生地公園　石田近隣公園　黒部市総合体育センター　黒部市吉田科学館
黒部市美術館　生地鼻灯台
【その他の施設】魚の駅「生地」　主要工場での産業観光　生地温泉
黒瀬川桜づつみ</td></tr><tr><td>地域資源</td><td>黒部川扇状地湧水群（名水百選）、富山湾、黒部川河口、新鮮な魚介類</td></tr><tr><td>文化財</td><td>生地台場　生地中橋　謙信手植の松</td></tr><tr><td>景観特性</td><td>生地地区のまちなみ（にほんの里百選、遊歩百選）
生地中橋（未来に残したい漁港漁村の歴史文化財産百選）
海岸からの眺望（日本の夕陽百選）
北アルプス連峰の遠望　荒俣海岸　大島海岸</td></tr></table></td><td>海岸部の主な施設・資源等
<table><tr><td>交通環境</td><td>【公共交通】あいの風とやま鉄道（生地駅）　富山地方鉄道（電鉄石田駅）
路線バス（新幹線生地線、生地循環線、石田三日市線、南北循環線）
デマンドタクシー
【道路網】（主）魚津生地入善線　（主）県道若栗生地線　国道８号入善黒部バイパス</td></tr><tr><td>主要施設</td><td>【公共施設】黒部漁港　石田漁港　石田フィッシャリーナ
石田浜海水浴場　総合体育センター　吉田科学館　美術館
生地鼻灯台　道の駅ＫＯＫＯくろべ
【公園・緑地】総合公園　生地公園　石田近隣公園　グリーンパークおおしま
【その他の施設】魚の駅「生地」　主要工場　生地温泉
黒瀬川桜づつみ</td></tr><tr><td>地域資源</td><td>黒部川扇状地湧水群（名水百選）　富山湾　黒部川河口　新鮮な魚介類</td></tr><tr><td>文化財等</td><td>生地台場　謙信手植の松　しばんば　生地たいまつ祭り</td></tr><tr><td>景観特性</td><td>生地地区のまちなみ（にほんの里百選、遊歩百選）
生地中橋（未来に残したい漁港漁村の歴史文化財産百選）
海岸からの眺望（日本の夕陽百選）
北アルプスの遠望　荒俣海岸　大島海岸
道の駅ＫＯＫＯくろべ周辺の拠点景観</td></tr></table></td></tr>
</table>

No 10

現　行

	強み	弱み
人口	・市街地として一定の人口を擁しており、公共施設や商店等が集積しています。	・若年層を中心に人口の流出がみられます。 ・それに伴って、空き家等の発生や、高齢化が進展しています。
観光・交流	・清水、漁村集落、鮮魚、産業観光など観光資源が豊富です。 ・観光ガイドなどの取組みが盛んです。 ・観光客が増加傾向にあります。 ・にほんの里百選に選ばれたまちなみがあります。	・増加する観光客に対して、各種施設や観光ボランティアなどの体制が追いついていない面があります。
環境	・石田フィッシャリーナなどマリンスポーツが楽しめる施設が立地しています。	・高波、津波など各種災害の危険があります。 ・海岸防風林は、松枯れが深刻化するところがみられます。
地域資源	・名水百選に選ばれた清水が数多く湧き出しています。 ・富山湾に面し、美しい海岸を有しています。	・冬季などで地下水位の低下がみられます。 ・浸食が進む箇所が見られます。
交通	・ＪＲ北陸本線や富山地方鉄道本線、地鉄バスが通っています。	・公共交通の利用客が減少傾向を示しています。 ・中心市街地・新幹線新駅方面を結ぶ幹線道路の計画が明確でありません。

見直し案

	強み	弱み
人口	・市街地として一定の人口を擁しており、公共施設や商店等が集積しています。 ・生地駅周辺では、地元と民間企業が連携したまちづくり構想が進められており、人口増加やにぎわいの創出が期待されます。	・若年層を中心に人口の流出が見られます。 ・空き家の発生や、高齢化が進展しています。 ・生地駅周辺は用途地域外ですが、今後、人口が増加した場合、この人口増加に伴う開発圧力の高まりが懸念されます。
観光・交流	・清水、漁村集落、鮮魚、産業などの観光に活かせる地域資源が豊富です。 ・観光ガイドなどの取組が盛んです。 ・近年、新型コロナウイルスの影響等により、観光客は減少していましたが、道の駅ＫＯＫＯくろべの整備や、富山湾岸サイクリングコースに設定されたことにより、多くの人々が訪れ、にぎわいが創出されています。 ・にほんの里百選に選ばれたまちなみがあります。	・観光客の増加が期待されますが、生地地区や石田地区の市街地における観光関連施設や観光ボランティアなどの不足が懸念されます。 ・道の駅ＫＯＫＯくろべ周辺では、用途地域外ですが、当該施設整備による開発圧力の高まりが懸念されます。
環境	・石田フィッシャリーナなど、マリンスポーツが楽しめる施設が立地しています。	・高波、津波など災害の危険があります。
地域資源	・名水百選に選ばれた清水が数多く湧き出しています。 ・富山湾に面し、美しい海岸を有しています。	・冬季などに、地下水位の低下が見られます。 ・海岸浸食が進む箇所が見られます。
交通	・あいの風とやま鉄道や富山地方鉄道、路線バスが通っています。	・近年、公共交通の利用者数が減少傾向を示しています。 ・黒部宇奈月温泉駅方面と連絡する（都）新駅中新線の延伸計画が明確化されていません。

No	現　行	見直し案
	６－２　海岸部 （２）地域の問題点・課題	６－２　海岸部 （２）地域の問題点・課題
11	１）　人口 人口の定着を図る 市街地は狭隘な道路に人家が密集する密集市街地となっていることから、火災時に類焼の危険性があるほか、ゆとりある暮らしを求め、若年層を中心に人口が流出傾向にあり、空き家や空き地の発生や高齢化進展の要因ともなっています。 このため、密集市街地でゆとり創出に努めるとともに、商業や福祉など地域住民の日常生活を支えるサービスの充実を図ることによって、若年層を中心とした人口の流出を防ぐとともに、高齢者も安心して暮らせるまちを実現する必要があります。	１）　人口 人口減少の抑制に向けた機能充実・市街地整備を図る 市街地は、狭隘な道路に民家が密集する密集市街地となっていることから、火災時に類焼の危険性があるほか、ゆとりある暮らしを求め、若年層を中心に人口が流出傾向にあり、空き家・空き地の発生や高齢化進展の要因ともなっています。 このため、密集市街地でゆとり創出に努めるとともに、商業や福祉など、地域住民の日常生活を支えるサービスの充実を図ることによって、若年層を中心とした人口の流出を防ぎます。また、地域では、市街地内における空き家・空き地等の増加を危惧していることから、住民が主体となって、土地区画整理事業等の手法を活用した住環境整備の検討に向けた勉強会を行っており、これらの取組と呼応しながら、適切な土地利用を進めることが必要です。さらに、高齢者も安心して暮らせるまちを実現する必要があります。 生地駅周辺では、地元と民間企業が連携したまちづくり構想が進められており、地域の活性化が期待される一方で、適切な土地利用を図っていくことが必要です。
12	２）　観光・交流 訪れたい魅力的な地域づくりを進める 生地地区のまち歩きと大規模工場の産業観光を中心に、年々観光客が増加傾向にありますが、来訪者を魅了する物販店や飲食店または来訪者向け駐車場などの施設に加え、観光ボランティアなどの体制が追いついていない面も生じています。 今後は、観光ニーズの変化・多様化によって、当地区への来訪者が一層増加すると見込まれるため、受入体制の充実を図るとともに、海岸と水辺の自然や景観等の優れた資源を積極的に保全・活用するなど、来訪者の満足度を高めてリピーター化や半定住化を促すことが必要です。	２）　観光・交流 訪れたい魅力的な地域づくりを進める 道の駅ＫＯＫＯくろべ周辺でのにぎわい創出に向けた取組や、生地地区のまち歩きと大規模工場の産業を活かした観光、富山湾岸サイクリングの開催などにより、にぎわいを取り戻しつつあります。 しかしながら、生地地区や石田地区の市街地では、来訪者を魅了する物販店や飲食店のほか、観光ボランティアの不足が懸念されます。 また、道の駅ＫＯＫＯくろべ周辺では、新たな商業施設や住宅団地の需要が見られることから、今後の開発動向を踏まえ、適切な土地利用に努める必要があります。 今後は、観光ニーズの変化・多様化によって、本地区への来訪者の更なる増加が期待されるため、受入体制の充実を図るとともに、海岸と水辺の自然や景観等の優れた資源を積極的に保全・活用するなど、来訪者の満足度を高めて、リピーターの増加を図るほか、交流人口や関係人口の増加につなげることが必要です。
13	３）　環境 高波などからの安全性を高める 市街地が海岸に接しているため、漁村景観の継承に努めながら、高波、津波などの危険性から地域を守る必要があります。	３）　環境 地域の安全性を高める 市街地が海岸に接しているため、漁村景観の継承に努めながら、高波、津波などの危険性から地域を守る必要があります。
14	４）　地域資源 水環境（名水・海辺）を守る 生地市街地などに点在する湧水群は、生活や消雪用の揚水量の増大、地下浸透の減少などにより地下水位の低下がみられます。このため地域の内外において、地下水の保全対策が必要となっています。 また、美しい海岸環境を守るため、侵食が進む海岸の保全が求められます。	４）　地域資源 水環境（名水・海辺）を守る 生地市街地などに点在する湧水群の一部では、水質中の塩化物イオンの数値が基準値を超える箇所があることから、引き続き、水質調査の値を注視していく必要があります。 また、美しい海岸環境を守るため、侵食が進む海岸の保全が求められます。
15	５）　交通 中心市街地等との連携を強化して一体性を高める 公共交通機関の利用者の減少や、中心市街地・新幹線新駅方面を結ぶ幹線道路が整備されていないなど、本地域と中心市街地等との連携が希薄となる恐れがあります。 このため、中心市街地（三日市）及び幹線道路との交通を充実・強化することにより、一体的な黒部市のまちづくりを進める必要があります。	５）　交通 中心市街地等との連携を強化して一体性を高める 本地域においては、生地地区や石田地区と中心市街地や黒部宇奈月温泉駅などを連絡する路線バスのほか、デマンドタクシーが運行していますが、近年、利用者数が減少傾向を示しており、維持・活性化が喫緊の課題となっています。 一方、本市では、「黒部市立地適正化計画」において、“コンパクトかつ公共交通等ネットワークが充実したまちづくり”を推進しており、同計画に基づき、中心市街地（三日市地区）及び幹線道路との交通を充実・強化することにより、一体的な黒部市のまちづくりを進める必要があります。

No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
	６－２　海岸部　（３）地域の将来像	６－２　海岸部　（３）地域の将来像	
16	≪安全・快適に暮らせる きれいな海辺の生活・観光・レクリエーション拠点≫ 当該地域は、富山湾に面する海岸部の特性を活かし、各種の災害から安全で、若者から高齢者まで快適に暮らせるまちを実現します。 また、漁村集落ならではのまちなみや清水を守り、海浜レジャー施設を活かしながら、感動して何度も訪れたいまちを目指します。	≪美しい海辺などを活かした観光・にぎわい拠点が形成された地域≫ 本地域においては、富山湾に面する海岸部の特性を活かしながら、津波などの自然災害に強い地域の実現を目指します。 また、漁村集落ならではのまちなみや清水を守り、海浜レジャー施設や道の駅ＫＯＫＯくろべなどを活かしながら、魅力的で何度も訪れたくなるまちづくりを推進します。	**【見直しの考え方】** ・全体構想及び以降の“まちづくりの方針”の内容を踏まえ修正・更新
	６－２　海岸部　（４）まちづくりの方針 １）海辺のまちなみを活かした市街地整備	６－２　海岸部　（４）まちづくりの方針 １）海辺のまちなみを活かした市街地整備	
17	密集市街地の空き地等を活用して、小公園や海辺・水辺遊歩道等の整備に努めるとともに、増加する高齢者が安心して暮らせるよう、身近な福祉施設や利便施設等を空き家等の活用も含めて整備充実に努めます。	密集市街地の空き地等を活用して、身近に利用できる公園や海辺・水辺遊歩道等の適切な配置の検討及び整備に努めるとともに、市民意識の啓発や、空き家・空き地等の適切な土地利用を進めながら、市民が安心して暮らせるよう、身近な福祉施設や生活利便施設等の整備・充実に努めます。	**【問題点・課題】** ・空き家の利活用に対する意識が低い **【見直しの考え方】** ・空き家の利活用の促進（市民意識の醸成など）に向けた内容の充足
18	併せて、下水道の整備促進など、快適な住環境の形成に努めます。	また、老朽化が深刻な生地水源地、石田岡水源地及び村椿水源地の機能を集約した新たな配水場の整備を進めます。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、下水道の整備促進など、快適な住環境の形成
19	また市街地は、風情を残すまちなみを保全しつつ、住宅の不燃・耐震化や防災上安全な道路幅員の確保など防災性を向上させるため、地域住民の参画を図り、地域の実情に応じた手法の調査研究を進めつつ、整備を図っていきます。	市街地においては、まちなみの環境や景観に対する市民意識の啓発に努めながら、風情を残すまちなみを保全するとともに、住宅の不燃・耐震化や安全な道路幅員の確保など、防災性を向上させるため、地域住民の参画を図り、地域の実情を踏まえた対応策を検討します。	**【問題点・課題】** ・住民のまちなみ保全意識が低い **【見直しの考え方】** ・まちなみ保全（市民意識の醸成など）に向けた内容の充足
20	併せて防災訓練等により市民の防災意識を啓発します。	あわせて、近年、頻発・激甚化する自然災害に備え、訓練内容を充実した防災訓練等を実施し、市民の防災意識の啓発を図ります。	**【問題点・課題】** ・時代に応じた訓練項目を加えながら、継続した実施が必要 **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、防災訓練等による市民の防災意識を啓発
21	市街地周辺の住居専用地域などでは、宅地化を促進し、地域定住を進めていきます。	市街地周辺の住居系の用途地域などでは、良好な住環境を維持しながら、移住・定住の促進を図ります。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続するが、立地適正化計画との整合性に留意した表現に変更
22	また、海辺でのスローライフを求める定住・半定住者への受入を行うため、ＮＰＯなどによる空き家の斡旋や貸し出しなどを働きかけます。	また、海辺でのスローライフを考えている人々の移住・定住を受け入れるため、「移住・人つなぎ支援センター」の活用を促進するとともに、「黒部市空家・空地情報バンク」の利用促進やＮＰＯなどと連携した空き家の活用を推進します。	**【問題点・課題】** ・NPO などによる空き家の斡旋や貸し出しなどの働きかけは実施していない ・半定住の表現は一般的ではない **【見直しの考え方】** ・実態に応じた表現に修正、移住・定住の促進に向けた内容の充足

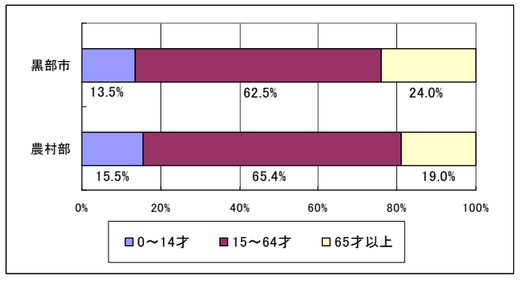
No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
23	―	このほか、生地駅周辺では、地元振興会などが民間企業と連携し、駅の移設検討を含めたまちづくり構想を進めており、地元や民間企業との役割分担の下、相互に連携し、地域活性化の観点から市の役割を果たしていきます。	・全体構想を踏まえ新たに追記
	６－２　海岸部　（４）まちづくりの方針 ２）まち歩き観光や産業観光による地域の活性化	６－２　海岸部　（４）まちづくりの方針 ２）まち歩き観光や産業を活かした地域の活性化	
24	来訪者の増大に対応するため、受入体制を整備するとともに、来訪者用の商業・飲食施設等の立地促進や、散策の安全性や楽しさの増進を検討します。	来訪者の集客力を向上するため、魅力的な商業・飲食施設等の立地を促進するとともに、安全で快適にまち歩きを楽しめる環境の充実に向けた取組などを検討します。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、来訪者の受入体制の整備、来訪者用の商業・飲食施設等の立地促進や、散策の安全性や楽しさの増進の検討
25	市街地では、散策ルートの充実に努めるとともに、伝統的住宅の改築・修復など景観まちづくりの推進に向けた各種事業を検討します。	また、散策ルートの充実を検討するほか、まち歩きガイドの確保や人材育成などによる受入れ体制の強化に努めるとともに、市街地では、景観まちづくりの推進に向けた各種事業を検討します。	**【問題点・課題】** ・散策ルートの充実とそのガイドのため、新規の観光ガイドの確保等の人材育成が必要 ・伝統的住宅の改築・修復などのニーズがない **【見直しの考え方】** ・観光・交流の推進に向けた内容の充足 ・伝統的住宅の改築・修復は、事業未定のため、記述の削除
26	また、民間企業との連携を含めて、水資源やまちなみなど、良好な資源を活用したツアーの充実、漁村の歴史を継承するガイドの育成、市民のホスピタリティの向上などを働きかけ、来訪者の再訪に努めます。	さらに、民間企業との連携を含めて、水資源やまちなみ景観など、良好な地域資源を活用した観光ツアーの充実、漁村の歴史を継承する観光ガイドの育成、市民のホスピタリティ（もてなしの心）の醸成などを働きかけ、リピーターとなる来訪者の確保に努めます。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、良好な資源を活用したツアーの充実などを働きかけ
27	―	このほか、新たな観光・にぎわい拠点である道の駅ＫＯＫＯくろべ周辺においては、集客力のある施設が集積していることから、複合的に一体感のあるエリアとして、地域振興に資するにぎわいの創出を図ります。また、新たな商業施設や住宅団地の需要が見られることから、今後の開発動向を踏まえ、適切な土地利用に努めます。	・全体構想を踏まえ新たに追記

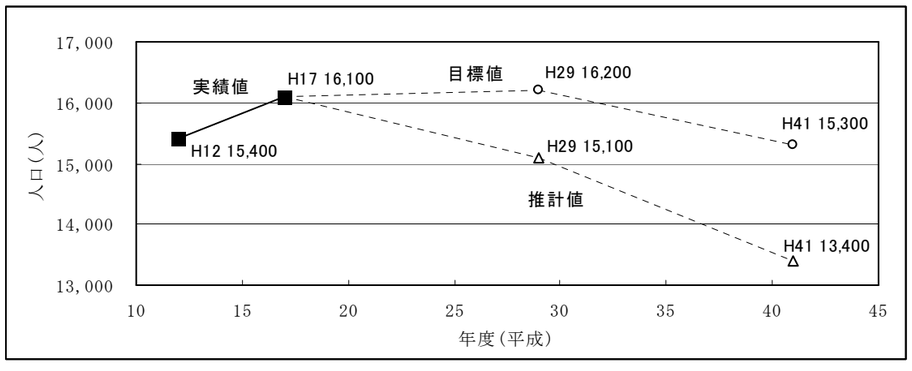
No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
	６－２　海岸部　（４）まちづくりの方針 ３）海浜レクリエーション拠点の形成	６－２　海岸部　（４）まちづくりの方針 ３）海浜レクリエーション拠点の形成	
28	家族で釣りが楽しめる石田フィッシャリーナ・釣り桟橋、海水浴が楽しめる石田浜などを活かし、大人から子どもまで富山湾の海の恵みにふれることができる地域として、海洋レジャーやマリーンスポーツの需要に対応したマリーナや周辺施設の活用を促進します。	家族で釣りが楽しめる石田フィッシャリーナ・釣り桟橋、海水浴が楽しめる石田浜海水浴場、富山湾岸サイクリングコース、生地鼻灯台などを活かし、大人からこどもまで、富山湾の海の恵みに触れることができる地域として、多様なレジャーやマリンスポーツの需要に対応したマリーナや周辺施設の活用及び機能の充実を促進します。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、海洋レジャーやマリンスポーツの需要に対応したマリーナや周辺施設の活用の促進
29	また海辺は、寄り回り波などの高波や津波等の対策として、防波堤や消波ブロックの補強、防災避難施設や避難路の整備をはじめ、荒俣海岸や大島海岸の保全の徹底に努めるとともに、季節風による被害を軽減するための海岸防風林の保全に努めます。	また、海辺は、国や県と連携しながら、寄り回り波などの高波や津波等の海岸保全対策として、防波堤や消波ブロックの補強、防災避難施設や避難路の整備をはじめ、荒俣海岸や大島海岸の保全の徹底に努めるとともに、季節風による被害を軽減するための海岸防風林の維持・保全に努めます。	**【問題点・課題】** ・下新川海岸は、国直轄の海岸保全事業を実施しており、継続的に更なる侵食・高波対策などの海岸保全対策の推進が必要 **【見直しの考え方】** ・今後も継続
	６－２　海岸部　（４）まちづくりの方針 ４）海辺や湧水など水を活かした地域の振興	６－２　海岸部　（４）まちづくりの方針 ４）海辺や湧水などの環境を保全	
30	生地市街地などに点在する黒部川扇状地湧水群など、恵まれた名水を保全・活用していくため、水に対する市民の関心を高め、その維持のための節水など、水環境の保全意識の高揚を全市的に働きかけていきます。	生地の市街地などに点在する黒部川扇状地湧水群など、恵まれた名水を保全・活用していくため、水質などの長期的なモニタリング調査を実施するとともに、水に対する市民の関心を高め、その維持のための節水など、水資源の保全に対する意識の啓発を全市的に働きかけていきます。	**【問題点・課題】** ・清水の中には、一部塩水化しているものもあり、水質について継続的な検査が必要 **【見直しの考え方】** ・黒部川扇状地湧水群の保全・適正利用に向けた内容の充足
31	美しい海岸環境を維持・保全していくため、住民参加による環境保全、美化活動のさらなる啓発・普及及び環境保全団体の支援による保全活動を推進します。	また、美しい海岸の環境や景観を維持・保全していくため、住民参加による環境保全に向けた取組や美化活動を促し、市民意識の更なる啓発及び環境保全団体の支援による保全活動を推進します。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続
32	また、浸食が進むところについては、景観に配慮しながら離岸堤や緩傾斜堤、人工リーフ等の整備など下新川海岸直轄事業を促進します。	さらに、海岸浸食が進むところについては、国や県と連携し、景観に配慮しながら、藻場・漁場保全機能との一体型離岸堤や緩傾斜堤、人工リーフ等の整備など、下新川海岸直轄事業を促進します。	**【問題点・課題】** ・消波・防護機能や藻場・漁場保全機能の一体型離岸堤ブロックの技術開発を目指すことが必要 **【見直しの考え方】** ・今後も継続
	６－２　海岸部　（４）まちづくりの方針 ５）三日市市街地方面をはじめ地域間交通網の充実	６－２　海岸部　（４）まちづくりの方針 ５）中心市街地をはじめ地域間の道路・交通網の充実	
33	バス路線の維持や公共交通の充実、都市計画道路新駅中新線の延伸など幹線道路の整備、都市計画道路の見直しなどにより、中心市街地や幹線交通網からの連携を向上するとともに、海岸線整備をはじめ、狭隘道路の拡幅、ボトルネック区間の解消などを促進し地域内交通の円滑化を促します。	主要幹線道路では、黒部宇奈月縦貫道路の一部区間を担う（都）新駅中新線について、関係機関と協議しながら、延伸の必要性や効果を検証するとともに、海岸部を南北に連絡する湾岸道路の整備を促進します。 また、幹線道路については、必要性の高い路線を選択し、道路改良や歩行環境の整備等を促進するとともに、必要に応じて、都市計画道路の見直しを検討し、中心市街地や幹線交通網からの連携向上を図ります。 さらに、狭隘道路の拡幅、ボトルネック区間の解消などを促進し、地域内交通の円滑化を促します。 このほか、路線バス・コミュニティ交通については、運行事業者や地元振興会との連携を強化しながら、利用促進を図るとともに、適宜、ルートやダイヤの見直しを行うなど、利便性の向上に努めます。	**【問題点・課題】** ・黒部宇奈月縦貫道路は、（都）新駅中新線の４車線化供用に向け、関係機関との連携強化や延伸について検討が必要 ・湾岸道路は、整備促進に向け、関係機関との連携強化が必要 ・減少する沿線人口と増大する収支のバランスを考慮したルートとダイヤの設定が必要 **【見直しの考え方】** ・広域幹線道路と主要幹線道路・幹線道路との連携強化（構想路線の実現など）や、北陸新幹線開業後における、鉄道を軸とした公共交通ネットワークの強化に向けた内容の充足

No	現　行	見直し案
	６－３　農村部 （１）地域の概況	６－３　農村部 （１）地域の概況
34	１）　地形・立地 本地域は、国道８号バイパスから山側で、中心市街地と新幹線新駅に接し、北側には黒部川が流下する農業振興地域に指定された地域で、大布施地区の全域及び、荻生、若栗、田家、浦山、下立、愛本等の地区の一部からなる概ね 3, 030ha の地域です。 黒部川扇状地上に広がる水田に農家が点在する散居村、そして、北陸街道の下街道に沿う集村集落（沓掛等）の２つから形成されています。	１）　地形・立地 本地域は、主に国道８号入善黒部バイパスから山側に位置し、中心市街地と新幹線駅周辺に接する大部分が農業振興地域に指定された地域です。大布施地区の全域、荻生、若栗、田家、浦山、下立、愛本の地区の一部からなるおおむね 3, 080ha の地域です。 黒部川扇状地に広がる水田に農家が点在する散居村や、北陸街道の下街道に沿う集村集落（沓掛等）から形成されています。
35	２）　歴史 黒部川扇状地の扇央部に位置し、かつては黒部川の度重なる氾濫や冷水で収量の少ない農村地帯でしたが、明治期からの治水事業や戦後からの流水客土事業、ほ場整備などの基盤整備事業により、整然とした区画の豊かな農業地域へと変貌しました。	２）　歴史 黒部川扇状地の扇央部に位置し、かつては黒部川の度重なる氾濫や冷水で収量の少ない農村地帯でしたが、明治期からの治水事業や戦後からの流水客土事業、ほ場整備などの基盤整備事業により、整然とした区画の豊かな農業地域へと変貌しました。
36	３）　人口・世帯数 三日市周辺の大布施や田家地区で住宅団地開発が盛んに行われていることから、地域として人口は増加傾向にあり、しかも若年層の割合が高くなっています。一方、中心市街地等から離れた純農村部では、人口が減少傾向にあります。 人口・世帯数等の推移 年齢階層別人口割合（平成 17 年） 人口の推移及び推計・目標値	３）　人口・世帯数 本地域では、大布施地区での宅地開発の進行などによって、一部の地区で人口が増加しているものの、他の地域では人口が減少していることから、本地域の人口は横ばいとなっています。また、世帯数が増加しているため、平均世帯人員は減少しており、核家族化の進行がうかがえます。また、国立社会保障・人口問題研究所の令和５年の人口推計では、目標年次の令和 25 年に約 13, 300 人まで減少することが予測されています。 令和２年の年齢階層別人口割合については、65 歳以上は３割以下であり、本市平均と比べ、少子高齢化の傾向は緩やかとなっています。 人口・世帯数等の推移 年齢階層別人口割合（令和２年） 人口の推移及び推計・目標値 推計値：国立社会保障・人口問題研究所の人口推計（日本の地域別将来推計人口（令和５年推計））より算出 目標値：黒部市人口ビジョン（令和２年改訂版）の目標値を参考に算出

人口・世帯数等の推移

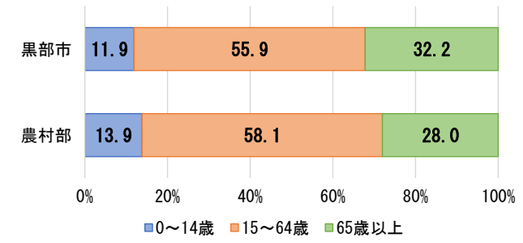
	平成12年	平成17年
人口（人）	15, 400	16, 100
世帯数（世帯）	4, 710	5, 180
人口密度（人/ha）	5. 1	5. 3
平均世帯人員（人/世帯）	3. 3	3. 1
人口推移（H12=100）	100	104

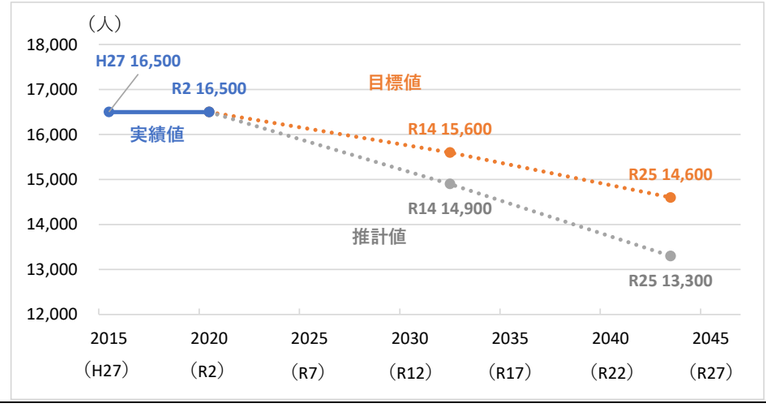


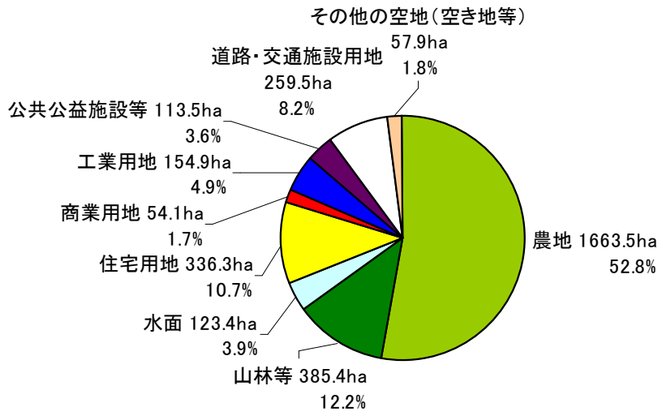
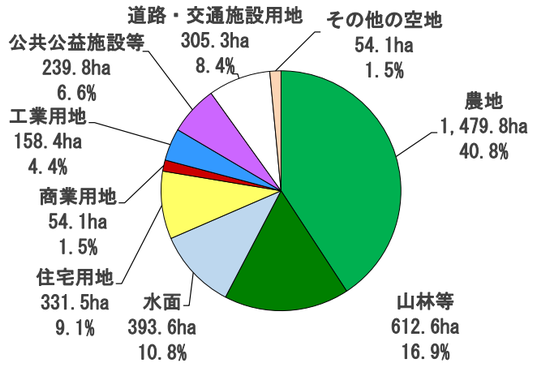


人口・世帯数等の推移

	平成27年	令和２年
人口（人）	16, 500	16, 500
世帯数（世帯）	5, 680	6, 070
人口密度（人/ha）	5. 4	5. 4
平均世帯人員（人/世帯）	2. 9	2. 7
人口推移（H27=100）	100	100





No	現　行	見直し案
37	４）　産業 水稲を中心に農業が盛んに行われてきましたが、近年は農業従事者の減少・高齢化などにより、経営耕地面積や農業生産額が減少傾向にあります。	４）　産業 水稲を中心に農業が盛んに行われてきましたが、近年は農業従事者の減少や高齢化などにより、農業経営体や農業経営体耕地面積は減少傾向にあります。一方で、農業産出額（耕種・畜産）は増加傾向にあります。
38	５）　観光・交流 近年、農業や農村の暮らしを体験する交流プログラムなどが、都市住民等を対象として行われています。また、黒部川流域に設けられている複数の公園・緑地は親水空間として市内外から多くの利用があります。	５）　観光・交流 近年、農業や農村の暮らしを体験する交流プログラムなどが、都市住民等を対象として行われています。また、黒部川流域に設けられている複数の公園・緑地は、親水空間として、市内外から多くの人に利用されています。
39	６）　交通 主要道路や旧街道が、当地域と中心市街地や他の地域とを結んでおり、本市の骨格となる国道８号バイパスと、都市計画道路新駅中新線の整備が、現在進められています。 公共交通では、路線バスが中心市街地（電鉄黒部駅）と結んでいましたが、昭和末期に廃止になっています。	６）　交通 幹線道路や旧街道が、本地域と中心市街地や他の地域を連絡しています。 また、本市の骨格となる国道８号入善黒部バイパスが全線開通するとともに、黒部宇奈月縦貫道路の一部区間を担う（都）新駅中新線の４車線供用に向けた整備が進められています。 公共交通については、路線バス・コミュニティ交通が地域内外を連絡していますが、利用者は減少傾向を示しています。
40	７）　土地利用 当地域は集村と散居村に二分され、土地利用の状況としては農地が半分以上を占めています。黒部川をはじめとして多くの河川が流れ、それに面して黒部川公園や中ノ口緑地公園等の公園・緑地が整備されていることも特徴的です。 しかし、市街地の近くで、基盤整備された農地に住宅団地やアパートが進出したり、幹線道路沿いに郊外型商業施設が立地する動きもあり、それに伴って、営農環境の悪化や、行き止まり道路なども生じています。 土地利用の状況  	７）　土地利用 本地域は、集村と散居村に二分され、土地利用の状況としては、農地が半分以上を占めています。 また、黒部川をはじめとして多くの河川が流れ、それに面して黒部川緑地や中ノ口緑地等の公園・緑地が整備されていることも特徴的です。 しかし、市街地の近隣においては、基盤整備された農地を転用した宅地開発が進むとともに、幹線道路沿いでの郊外型商業施設の立地など、新たな商業施設や住宅団地の需要が見られ、営農環境の悪化などが懸念されます。 土地利用の状況 
41	８）　自然・景観等 荻生や若栗地区などに広がる美しい散居景観、黒部川をはじめ大小の川が流れる農村景観は、地域の財産ともいえます。 一方、国道８号の沿線には沿道型施設の立地が多く、周辺と調和しない看板等が多く掲出されています。 また環境面では、地下水を利用した道路等への消雪装置により、海岸部の地下水位が低下するなどの問題も起きています。	８）　自然・景観等 荻生や若栗地区などに広がる美しい散居景観や、黒部川をはじめとする大小の河川が流れる農村景観は、地域の財産となっています。 一方、（一）魚津入善線の沿線には、沿道型商業施設などの立地により、周辺景観と調和しない屋外広告物等が多く設置されています。 また、環境面では、地下水を利用した道路等への消雪装置により、海岸部の地下水位が低下するなどの問題も生じています。

No 42

現　行

農村部の主な施設・資源等

交通環境	【公共交通】地鉄バス（池尻線・金太郎温泉線） 【道路網】国道８号線　国道８号バイパス　新川広域農道 県道沓掛魚津線　県道若栗生地線
主要施設	【公共施設】黒部川公園　中ノ口緑地公園　明日キャンプ場　愛本公園 【その他の施設】主要工場
地域資源	北陸街道（下街道）　黒部川　黒瀬川　高橋川　吉田川 黒西合口用水・愛本新用水
文化財	愛本新遺跡　北野の石龕　石田の石塔群　熊野･栃屋の石塔群　愛本新御前林の松　明日の大桜
景観特性	ほ場整備により整備された田園風景 散居村　街道沿いの風景 北アルプス連峰の遠望　黒部川の自然景観

見直し案

農村部の主な施設・資源等

交通環境	【公共交通】路線バス（新幹線生地線、新幹線市街地線、生地循環線、石田三日市線、池尻線、南北循環線） 愛本コミュニティタクシー　デマンドタクシー　入善町営バス新屋線 あさひまちバス愛本線 【道路網】国道８号入善黒部バイパス （主）若栗生地線　（一）魚津入善線　（一）沓掛魚津線 （主）黒部宇奈月線
主要施設	【公共施設】国際文化センター「コラーレ」 明日キャンプ場　農村文化伝承館「山本家」 新川地域消防本部「黒部消防署」　練成館 【公園・緑地】黒部川緑地　中ノ口緑地　堀切児童公園　愛本公園 【その他の施設】主要工場
地域資源	北陸街道（下街道）　黒部川　黒瀬川　高橋川　吉田川 黒西合口用水・愛本新用水
文化財等	愛本新遺跡　北野の石龕　石田の石塔群　熊野・栃屋の石塔群　愛本新御前林の松　明日の大桜　愛本新用水天満宮松明祭
景観特性	ほ場整備により整備された田園景観 散居村　街道沿いの景観 北アルプスの遠望　黒部川の自然景観

43

	強み	弱み
土地利用	・農地は基盤が整備され、農業生産の拠点となっています。 ・流水客土など、農地改良の貴重な歴史を有しています。 ・中心市街地などにも近く、生活に便利な地域です。	・農村部への無秩序な宅地化に伴い、営農･生活環境の悪化等も見られます。 ・農業従事者の減少・高齢化が進んでいます。
景観	・田園に屋敷林が点在する美しい散居景観を残しています。 ・北アルプス連峰の遠望がきれいです。	・国道８号沿線の看板が景観を阻害しています。 ・整備が進む新たな幹線道路沿線において同様の懸念があります。
地域資源	・地域の北には黒部川が流れ、公園等の利用が便利です。	
交通	・国道８号バイパスや新駅中新線が整備中です。 ・道路が整備され、車で快適な生活がおくられます。	・公共交通によって中心市街地へアクセスすることができません。

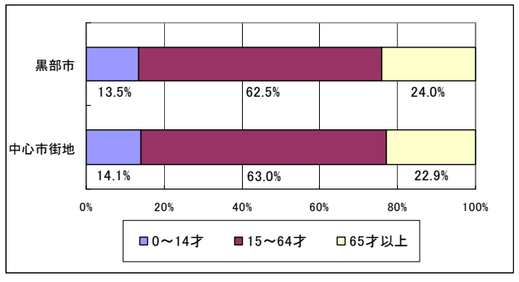
	強み	弱み
土地利用	・農業生産基盤が整備され、農業生産の拠点となっています。 ・流水客土など、農地改良の貴重な歴史を有しています。 ・中心市街地の周辺部では、生活利便性が高い地域です。	・農村部への無秩序な宅地化に伴い、営農・生活環境の悪化等も見られます。 ・農業従事者の減少・高齢化が進んでいます。
景観	・田園に屋敷林が点在する美しい散居景観を有しています。 ・北アルプスへの良好な眺望が保全されています。	・（一）魚津入善線沿線では、屋外広告物等が景観を阻害しています。 ・（都）新駅中新線沿線では、当該道路の整備による開発圧力の高まりが懸念されます。
地域資源	・本地域の北側には、黒部川が流れ、公園･緑地等の親水空間が市内外からの多くの人に利用されています。	―
交通	・国道８号入善黒部バイパスが全線開通し、（都）新駅中新線の４車線供用に向けた整備が進められており、交通利便性が高い地域です。	・近年、公共交通の利用者数が減少傾向を示しています。

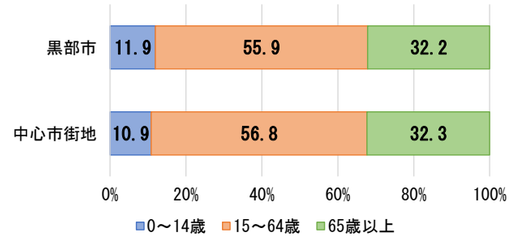
No	現　行	見直し案
	６－３　農村部 （２）地域の問題点・課題	６－３　農村部 （２）地域の問題点・課題
44	１）　土地利用 土地利用の適正化を図る 　市街地に近い地区を中心に無秩序な宅地化が進み、営農環境や生活環境が悪化する事態が生じています。 　このため、優良農地を虫食い的な開発から守り、秩序ある土地利用を実現することによって、農業生産環境の保全や農家と住民との農作業に係るトラブルの未然防止を図り、農業の維持・発展に努めるとともに、基盤が十分でない市街地の形成を阻止することが重要です。	１）　土地利用 土地利用の適正化を図る 　無秩序な開発を抑制することにより、優良農地を守り、農業生産環境の保全を図るとともに、農業の維持・発展に努めます。 　一方、新たな商業施設や住宅団地の需要が見られる市街地に近い地区については、今後の開発動向を踏まえた柔軟な対応が必要となっています。
45	２）　景観 地域の景観を改善・向上する 　基盤が整った農地と、点在する屋敷林が美しい田園景観を形成していますが、幹線道路沿線においては、それを阻害する看板等が数多く立っています。 　このため、国道８号バイパスや都市計画道路新駅中新線など新たな幹線道路沿線においても、都市化圧力とともに、新幹線からの景観等にも対応することにより、美しい田園景観を保全・活用していく必要があります。	２）　景観 田園・集落景観を保全する 　本地域では、優良農地と点在する散居の屋敷林が調和した美しい田園・集落景観を形成していますが、幹線道路沿線においては、それらを阻害する屋外広告物等が数多く設置されています。 　このため、（一）魚津入善線や新たに整備された（都）新駅中新線などの幹線道路沿線においては、開発圧力を注視するとともに、新幹線の車窓から見える景観等にも配慮することにより、美しい田園・集落景観を保全していくことが必要です。
46	３）　地域資源 河川を保全・活用する 　地域の北側を流れる黒部川をはじめとする諸河川は、うるおいある自然景観として親しまれており、今後とも保全と利活用に努める必要があります。	３）　地域資源 河川を保全・活用する 　本地域の北側を流れる黒部川をはじめとする諸河川は、うるおいある自然景観として親しまれており、今後とも保全と利活用に努めていく必要があります。
47	４）　交通 中心市街地等との交通を確保する 　現在、公共交通によって中心市街地へ行くことが出来なくなっているため、公共交通を確保し、地域内集落と中心市街地・新幹線新駅等との連携を図る必要があります。	４）　交通 中心市街地等との交通を確保する 　本地域においては、地域内外を連絡する路線バスやコミュニティ交通が運行していますが、利用者数が減少傾向を示しており、維持・活性化が喫緊の課題となっています。 　一方、本市では、「黒部市立地適正化計画」において、“コンパクトかつ公共交通等ネットワークが充実したまちづくり”を推進しており、同計画に基づき、中心市街地・黒部宇奈月温泉駅等との連携を図る必要があります。

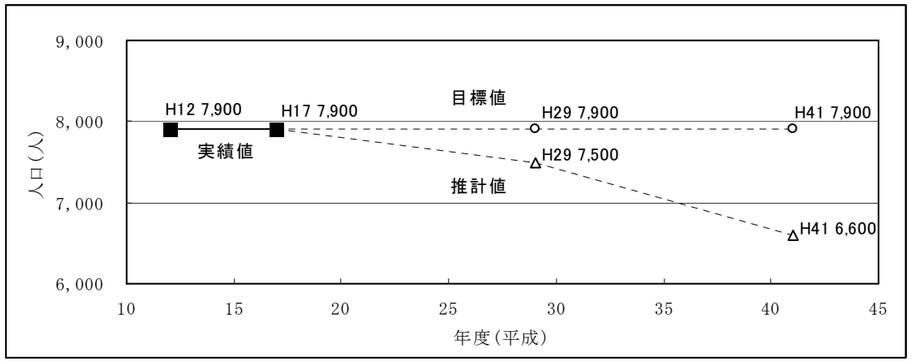
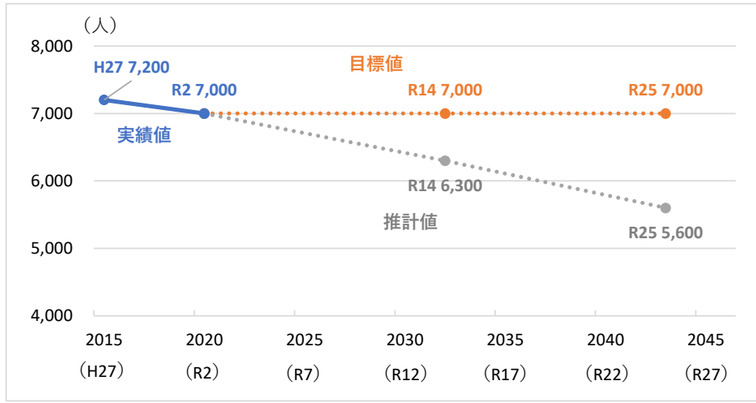
No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
	６－３　農村部　（３）地域の将来像	６－３　農村部　（３）地域の将来像	
48	≪生産と生活の基盤が整った豊かで美しい農村≫ 当該地域は、北アルプス連峰のパノラマを背景とした田園景観や本市を代表する黒部川などの水辺空間を貴重な資源として捉え、土地利用混在への厳しい防止や、資源の保全・活用を積極的に推進しながら、農業生産と生活環境の基盤が整った美しく豊かな農村を目指します。	≪農業生産環境と生活環境が調和した、豊かで美しく快適な地域≫ 本地域は、北アルプスのパノラマを背景とした、黒部川扇状地に広がる良好な田園景観や本市を代表する黒部川などの水辺空間を貴重な地域資源として捉え、土地利用の混在を防止するとともに、地域資源の保全・活用を積極的に推進しながら、農業生産環境と生活環境が調和した地域の実現を目指します。	**【見直しの考え方】** ・全体構想及び以降の“まちづくりの方針”の内容を踏まえ修正・更新
	６－３　農村部　（４）まちづくりの方針 １）土地の適正な誘導による農業の振興	６－３　農村部　（４）まちづくりの方針 １）土地利用の適正な誘導による農業振興	
49	農業の振興を図る地域として、土地利用の混在を防止し、適正な利用を実現するため、関係機関との連携や景観法等の活用を図りながら無秩序な住宅団地等の開発を抑制するとともに、工場等の立地は、工業団地や工場適地に誘導するなど適正な開発を進め、まとまりのある農業地を確保していきます。	農業振興を図る地域については、土地利用の混在を防止し、適正な利用を実現するため、関係機関との連携や都市計画法等に基づく各種制度の活用を検討し、無秩序な住宅団地等の開発を抑制します。 また、工場等の立地については、工業団地や工場適地への誘導などによる適正な開発を進め、まとまりのある農地を確保します。 一方、新たな商業施設や住宅団地の需要が見られる市街地に近い地区については、今後の開発動向を踏まえ、適切な土地利用に努めます。	**【問題点・課題】** ・景観法では開発の抑制は困難 **【見直しの考え方】** ・事業進捗や実現可能性を見据えた表現に修正
50	併せて、農業生産の進展に向けて、小区画農地から大区画化や汎用化の推進など、農業基盤や生産組織の再構築を促します。	さらに、農業生産の進展に向けて、小区画農地から大区画化や汎用化の推進など、農業基盤や生産組織の再構築を促すとともに、担い手育成や鳥獣対策などにより、安定的で持続的な農業生産環境の維持・向上を図ります。	**【問題点・課題】** ・担い手が減少していく中、土地改良事業に伴う受益者負担が必要 **【見直しの考え方】** ・農村の保全や適正な土地利用に向けた内容の充足
51	また、食の安全が求められているなかで、有機農業や収穫物の市街地等での直売を推進し、まちづくりへの活用を検討していきます。	あわせて、食の安全が求められている中で、有機農業の促進を図るとともに、市街地の店舗や道の駅ＫＯＫＯくろべ等での収穫物の直売を推進し、まちづくりへの活用を検討します。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、有機農業や収穫物の市街地等での直売の推進による、まちづくりへの活用の検討
52	その他、休耕農地等の有効利用を図るため、「米」以外の黒部らしい特産品の生産、市民農園としての利用、観光客の農業体験、農業を支援する仕組みの導入など、多様な農業の発展を生産者や関連部局と連携しながら模索していきます。	そのほか、休耕農地等の有効利用を図るため、生産者や関係機関と連携しながら、「米」以外の黒部らしい特産品の生産、景観に配慮したひまわり栽培、市民農園としての利用、観光客の農業体験、農業を支援する仕組みの導入など、多様な農業の発展を模索します。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、多様な農業の発展を生産者や関連部局と連携しながら模索

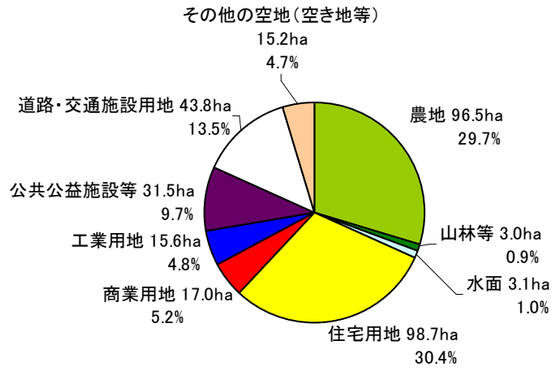
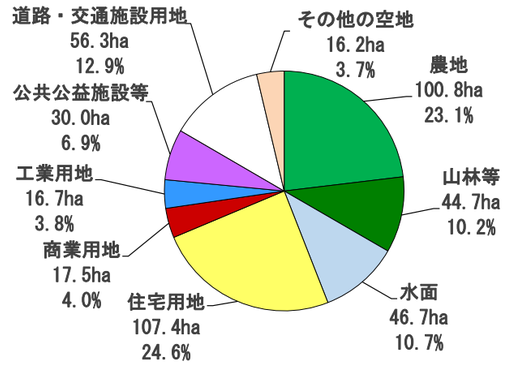
No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
	６－３　農村部　（４）まちづくりの方針 ２）散居景観など農村文化を伝える景観の保全	６－３　農村部　（４）まちづくりの方針 ２）散居景観などの農村文化を伝える景観の保全	
53	幹線道路沿道や新幹線の車窓・新幹線新駅などから見える北アルプス連峰のパノラマや田園風景等の良好な景観を保全するため、沿道の施設立地や広告物の設置等を規制するとともに、遠望景観を確保するため、都市計画制度の活用により建物形態規制や高さ制限等の規制・誘導の方法を検討します。	幹線道路沿道や北陸新幹線の車窓・黒部宇奈月温泉駅などから見える北アルプスのパノラマや田園等の良好な景観を保全するため、関係機関と連携しながら、富山県景観条例、富山県屋外広告物条例等の周知に努め、沿道における建築物の景観や屋外広告物の設置等を規制・誘導します。 また、無秩序な宅地化等を防止するとともに、良好な田園景観や眺望景観を保全するため、都市計画制度や景観法等の活用により、建築物の意匠、形態、高さ等の規制・誘導を検討します。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、北アルプスのパノラマや田園風景等の良好な景観の保全、遠望景観の確保に向けた取組の検討
	６－３　農村部　（４）まちづくりの方針 ３）　黒部川をはじめ河川を活かした親水空間の充実	６－３　農村部　（４）まちづくりの方針 ３）　黒部川をはじめ河川を活かした親水空間の充実	
54	黒部川をはじめとして、高橋川や黒瀬川、吉田川などの諸河川は、固有の生態系や美しい自然景観を有しており、それらを守り育てながら、うるおいと親しみのある空間として公園や遊歩道等の整備を推進していきます。	黒部川をはじめとして、高橋川や黒瀬川、吉田川などの諸河川は、固有の生態系や美しい自然景観を有しており、それらを守り育てながら、うるおいと親しみのある空間として保全するとともに、美化への取組をはじめ、良好な河川環境や景観の向上に努めます。 また、利用状況などを考慮した上で、公園や遊歩道等の整備を検討します。	**【問題点・課題】** ・遊歩道の利用状況やその後の維持管理を考慮した上で、真に必要な整備区間を選択し、周辺地区住民の理解が得られる計画が必要 ・公園施設の老朽化が進んでいるため、優先度や緊急度を適正に見極めながら、安全に利用できる環境維持が必要 **【見直しの考え方】** ・市民等が安全・安心で快適に利用できる公園・緑地等の機能充実に向けた内容の充足
	６－３　農村部　（４）まちづくりの方針 ４）農村環境に配慮した地域間を円滑に連絡する交通網の充実	６－３　農村部　（４）まちづくりの方針 ４）農村環境に配慮した地域間を円滑に連絡する道路・交通網の充実	
55	中心市街地等との公共交通を確保するため、国道８号バイパスや都市計画道路新駅中新線の整備と併せて、コミュニティ交通の導入など、地域に適した交通対策の検討を進めます。	中心市街地等との公共交通を確保するため、路線バス・コミュニティ交通について、運行事業者や地元振興会との連携を強化し、利用促進に取り組むとともに、適宜、ルートやダイヤの見直しを行うなど、利便性の向上に努めます。 また、地域間の円滑な道路ネットワークを構築するため、黒部宇奈月縦貫道路の一部区間を担う（都）新駅中新線について、関係機関と協議しながら、延伸の必要性や効果を検証します。	**【問題点・課題】** ・路線を維持するため、潜在的需要（運転免許証返納者等）の掘り起こしなど、更なる利用促進が必要 **【見直しの考え方】** ・公共交通の利用促進に向けた内容の充足

<table>
<tr><th>No</th><th>現　行</th><th>見直し案</th></tr>
<tr><td></td><td>６－４　中心市街地
（１）地域の概況</td><td>６－４　中心市街地
（１）地域の概況</td></tr>
<tr><td>56</td><td>１）　地形・立地
本地域は、黒部川扇状地の扇央部に位置し、豊かな農村部に囲まれた、三日市地区周辺の概ね 320ha の地域です。地域の北部を流れる高橋川や南東を流れる黒瀬川などは、市街地の住民に親しまれています。
旧来からの住宅地のなかには、公共施設や商店などが集積しています。</td><td>１）　地形・立地
本地域は、黒部川扇状地の扇央部に位置し、緑豊かな農村部に囲まれた、三日市地区周辺のおおむね 360ha の地域です。地域の北部を流れる高橋川や南東を流れる黒瀬川などは、市街地の住民に親しまれた身近な水辺空間となっています。
旧来からの住宅地の中には、公共施設や商店などが集積しています。</td></tr>
<tr><td>57</td><td>２）　歴史
江戸時代には、北陸街道の上街道と下街道の分岐点に位置したことから交通の要衝となり、宿場町として栄えるとともに、周辺農村の市場町（三の日に市を立てたことから「三日市」と称される）として発展しました。
明治 43 年（1910）には富直線（北陸線）の三日市駅（現ＪＲ黒部駅）が開業し、大正から昭和にかけて、黒部川水系の電源開発や石田港開発のため、黒部鉄道が整備（大正 11～12 年に三日市・宇奈月間、昭和５年に三日市・石田港間が開通）されました。これにより本地域は、黒部峡谷の玄関口であるとともに、農産物や海産物等の集散地となって発展してきました。
行政施設では、昭和 29 年の黒部市誕生以前に桜井町役場がこの地にあったことから、新市の中心として歩むことになったものです。</td><td>２）　歴史
江戸時代には、北陸街道の上街道と下街道の分岐点に位置したことから交通の要衝となり、宿場町として栄えるとともに、周辺農村の市場町（三の日に市を立てたことから「三日市」と称される）として発展しました。
明治 43 年（1910）には、富直線（北陸線）の三日市駅（現あいの風とやま鉄道黒部駅）が開業し、大正から昭和にかけて、黒部川水系の電源開発や石田港開発のため、黒部鉄道が整備（大正 11～12 年に三日市・宇奈月間、昭和５年に三日市・石田港間が開通）されました。これにより、本地域は黒部峡谷の玄関口であるとともに、農産物や海産物等の集散地となって発展してきました。
行政施設では、昭和 29 年の黒部市誕生以前に桜井町役場がこの地にあったことから、新市の中心として歩むことになったものです。</td></tr>
<tr><td>58</td><td>３）　人口・世帯数
中心部では空き家が発生するなど人口は減少傾向にありますが、牧野や三日市保育所周辺などで土地区画整理事業が整備されてきていることから、戸建て住宅や共同住宅の立地がみられ、地域全体としては人口増加を示しています。また、共同住宅が多いため、平均世帯人員が他と比べて少ない状況にあります。

人口・世帯数等の推移
<table><tr><th></th><th>平成12年</th><th>平成17年</th></tr><tr><td>人口(人)</td><td>7,900</td><td>7,900</td></tr><tr><td>世帯数(世帯)</td><td>2,910</td><td>2,980</td></tr><tr><td>人口密度(人/ha)</td><td>24.2</td><td>24.4</td></tr><tr><td>平均世帯人員(人/世帯)</td><td>2.7</td><td>2.7</td></tr><tr><td>人口推移(H12=100)</td><td>100</td><td>101</td></tr></table>
年齢階層別人口割合(平成 17 年)
</td><td>３）　人口・世帯数
本地域では、三日市保育所周辺などでの土地区画整理事業が進められていることもあり、世帯数は増加していますが、人口が減少しているため、平均世帯人員は減少しており、核家族化の進行がうかがえます。また、人口密度が低下しているとともに、中心市街地での空き家の分布も多く、中心市街地の空洞化などが懸念されます。このほか、国立社会保障・人口問題研究所の令和５年の人口推計では、目標年次の令和 25 年に約 5,600 人まで減少することが予測されています。
令和２年の年齢階層別人口割合については、15 歳未満が 10.9%、65 歳以上が 32.3%であり、本市平均値に近い数値となっています。

人口・世帯数等の推移
<table><tr><th></th><th>平成27年</th><th>令和２年</th></tr><tr><td>人口(人)</td><td>7,200</td><td>7,000</td></tr><tr><td>世帯数(世帯)</td><td>2,990</td><td>3,020</td></tr><tr><td>人口密度(人/ha)</td><td>20.0</td><td>19.4</td></tr><tr><td>平均世帯人員(人/世帯)</td><td>2.4</td><td>2.3</td></tr><tr><td>人口推移(H27=100)</td><td>100</td><td>97</td></tr></table>
年齢階層別人口割合(令和２年)
</td></tr>
</table>

No	現　行	見直し案
	人口の推移及び推計・目標値  	人口の推移及び推計・目標値  推計値：国立社会保障・人口問題研究所の人口推計（日本の地域別将来推計人口（令和５年推計））より算出 目標値：黒部市人口ビジョン（令和２年改訂版）の目標値を参考に算出
59	４）　産業 市の中心市街地として、商業・業務、教育などが集積して賑わってきましたが、近年は郊外型商業施設の立地等に伴い、旧来からの商店街は衰退傾向にあります。一方、用途地域内の周辺部には農地も多く残っており、水稲を中心とした農業が行われています。	４）　産業 本市の中心市街地として、商業・業務、教育などが集積してにぎわってきましたが、近年は郊外型商業施設の立地等も進み、空き店舗の発生が見られ、旧来からの商店街は衰退傾向にあります。一方、「黒部市立地適正化計画」策定以降、空き店舗を活用した商業施設の立地が見られるようになっています。
60	５）　観光・交流 交通機能とともに、商業・文化・医療・行政などの都市機能が集積し、本市の交流活動や都市サービスの拠点となっており、さらに近年は、まちなか観光の動きなども出てきています。	５）　観光・交流 本地域は、商業・文化・医療・行政などの都市機能の集積と各地域と連絡する公共交通及び幹線道路網により、本市の交流活動や都市サービスの拠点となっています。 また、近年はまちなかのにぎわい創出に向けた取組なども行われ、観光振興にも寄与しています。 さらに、旧黒部市役所跡地には、くろべ市民交流センター「あおーよ」が整備され、市民などが交流する拠点となっているほか、同施設内の「移住・人つなぎ支援センター」では、移住や関係人口拡大に向けた取組により、地域の活性化が期待されています。
61	６）　交通 各地域からの道路が集まる交通の要衝です。現在、外郭において新幹線新駅と国道８号バイパスを結ぶ都市計画道路新駅中新線の整備が進められている一方、未着手の路線・区間も残っています。 地域内にＪＲ北陸本線と富山地方鉄道本線の２つの路線が走り、２路線はかつてＪＲ黒部駅と電鉄黒部駅の間で連絡していました。しかし、連絡線は昭和 44 年に廃止され、現在は徒歩やバスによる乗り換え又は魚津市（魚津駅と新魚津駅間）での鉄道の乗り換えが必要となっています。 その他、バス路線として市街地を循環する前沢循線が通っています。	６）　交通 本地域は、各地域と連絡する道路網が集中する交通の要衝ですが、地域内の都市計画道路には、未着手の路線・区間も残っています。 地域内には、あいの風とやま鉄道と富山地方鉄道の２つの路線が走り、２路線は、かつて黒部駅と電鉄黒部駅の間で連絡していました。しかし、連絡線は昭和 44 年に廃止され、現在は徒歩やバスによる乗換え又は魚津市（魚津駅と新魚津駅間）での鉄道の乗換えが必要となっています。 また、鉄道以外の公共交通については、他の地域と連絡する路線バスやデマンドタクシーが運行されているほか、鉄道やバス等を補完する移動手段として、無料公共自転車「ちょいのり黒部」などが整備されています。
62	７）　土地利用 本地域は、黒部市の中心として住宅地や商店とともに黒部市役所黒部庁舎や黒部市国際文化センター「コラーレ」、黒部市民病院等の公共施設が集積していることから商業用地や公益施設用地など、都市的な土地利用が多いのが特徴です。 中心部では空き家・空き店舗等が発生していますが、事業が完了した牧野土地区画整理事業の施行区域内では住宅やアパートなどの建設が活発となっています。 また、用途地域内の周辺部には農地も残っており、営農意欲の高いカドミウム汚染田については、土壌復元も行われています。	７）　土地利用 本地域は、本市の中心市街地であり、住宅地や商店のほか、黒部市役所、くろべ市民交流センター「あおーよ」、黒部市民病院等が集積しており、商業用地や公共公益施設などが多いことが特徴です。 中心市街地では、空き家・空き店舗等の低未利用地が発生している一方で、事業が完了した牧野土地区画整理事業の施行区域内では、住宅やアパートなどの立地が見られます。 また、民間企業が整備したパッシブタウン（集合住宅）やＫ－ＴＯＷＮＮ（単身寮）が立地しています。 このほか、用途地域内の周辺部には、農地も残っています。

<table>
<tr><th>No</th><th>現　行</th><th>見直し案</th></tr>
<tr><td></td><td>土地利用の状況

</td><td>土地利用の状況

</td></tr>
<tr><td>63</td><td>８）　自然・景観等
　市街地は人家が密集して連たんしているため、火災等の発生時に類焼の危険性が高いうえ、歩道が未整備な道路も多く、通学路や歩行の安全性は十分とは言えません。
　北陸街道の宿場町ならではの古い建物やまちなみなどが残っていますが、建て替えや改築により姿を変えている建物もあります。</td><td>８）　自然・景観等
　市街地は、民家が密集しているため、火災等の発生時に類焼の危険性が高いうえ、歩道が未整備な道路もあり、通学路や歩行の安全性は十分とは言えません。
　一方、「黒部市立地適正化計画」の防災指針によれば、1000 年に１回程度起こる降雨が発生した場合、中心市街地において 0.5m 以上～3.0m未満の浸水が想定されています。
　また、北陸街道の宿場町ならではの古い建物やまちなみなどが残っている一方で、建物の建て替えや改築のほか、空き家及び空き地の発生により、北陸街道としての歴史的な面影が衰退しています。</td></tr>
<tr><td>64</td><td>中心市街地の主な施設・資源等
<table>
<tr><td>交通環境</td><td>【公共交通】ＪＲ黒部駅　富山地方鉄道電鉄黒部駅・東三日市駅
地鉄バス（前沢循環）
【道路網】県道黒部宇奈月線　県道沓掛魚津線　県道石田前沢線</td></tr>
<tr><td>主要施設</td><td>【公共施設】黒部市役所黒部庁舎　黒部市国際文化センター「コラーレ」
黒部市民病院　国土交通省黒部河川事務所　県立桜井高等学校
黒部警察署　黒部消防署　天神児童公園　１号街区公園　２号街区公園
【その他の施設】三日市各地区商店街　ショッピングセンター
主要工場</td></tr>
<tr><td>地域資源</td><td>高橋川、黒瀬川</td></tr>
<tr><td>文化財</td><td>八心大市比古神社(三島神社)　三島の大ケヤキ　三本柿　石田の石塔群
西徳寺の庭園　桜井の化藤　旧三日市小学校の百年桜</td></tr>
<tr><td>景観特性</td><td>北陸街道（上街道と下街道の分岐点）宿場町
市姫通りを中心とした都市景観</td></tr>
</table></td><td>中心市街地の主な施設・資源等
<table>
<tr><td>交通環境</td><td>【公共交通】あいの風とやま鉄道（黒部駅）
富山地方鉄道（電鉄黒部駅、東三日市駅）　路線バス（新幹線市街地線、生地循環線、石田三日市線、池尻線、南北循環線）
デマンドタクシー
【道路網】（主）黒部宇奈月線　（一）魚津入善線　（一）沓掛魚津線
（一）石田前沢線</td></tr>
<tr><td>主要施設</td><td>【公共施設】黒部市役所
くろべ市民交流センター「あおーよ」　三日市体育センター
黒部市民病院　国土交通省黒部河川事務所　富山県立桜井高等学校
黒部警察署　富山県新川厚生センター
【公園・緑地】天神新児童公園　１号街区公園　２号街区公園
【その他の施設】三日市各地区商店街　ショッピングセンター
主要工場</td></tr>
<tr><td>地域資源</td><td>高橋川、黒瀬川</td></tr>
<tr><td>文化財等</td><td>八心大市比古神社(三島神社)　三島の大ケヤキ　三本柿　石田の石塔群
西徳寺の庭園　桜井の化藤　旧三日市小学校の百年桜</td></tr>
<tr><td>景観特性</td><td>北陸街道（上街道と下街道の分岐点）宿場町
市姫通りを中心とした都市景観</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>No</th><th>現　行</th><th>見直し案</th></tr>
<tr><td>65</td><td>
<table>
<tr><th></th><th>強み</th><th>弱み</th></tr>
<tr><td>産業</td><td>・　商業・文化・医療・行政などの高次都市機能が集積しています。</td><td>・　空き家の発生や商店の売り上げの減少など、地域の活力が減退傾向にあります。</td></tr>
<tr><td>環境</td><td>・　歩いて用が足せる便利さがあります。</td><td>・　類焼火災の危険性が高い現状となっています。
・　交通の安全に不安な箇所もあります。</td></tr>
<tr><td>景観</td><td>・　旧街道筋のまちなみや文化財など歴史的資源が残っています。</td><td>・　古い建物の建て替えや改築等による変貌も生じています。</td></tr>
<tr><td>交通</td><td>・　各地域からの道路や公共交通が集積しています。</td><td>・　未着手の都市計画道路があります。
・　ＪＲ北陸本線と富山地方鉄道本線が立体交差し、連絡していません。</td></tr>
</table>
</td><td>
<table>
<tr><th></th><th>強み</th><th>弱み</th></tr>
<tr><td>産業</td><td>・　商業・文化・医療・行政などの都市機能が集積しています。
・　黒部市立地適正化計画策定以降、商業施設の立地が増加しています。</td><td>・　郊外型商業施設の立地や、空き店舗の発生などから、商店街が減退傾向にあります。</td></tr>
<tr><td>環境</td><td>・　コンパクトな中心市街地に都市機能が集積し、生活利便性が高く、歩いて暮らせる環境が整っています。</td><td>・　住宅が密集する地区では、類焼火災の危険性が高い状況となっています。
・　1000年に１回程度起こる降雨が発生した場合、中心市街地での浸水が想定されています。
・　交通の安全性に不安な箇所もあります。</td></tr>
<tr><td>景観</td><td>・　旧街道筋の建物や文化財などの歴史的資源が残っています。</td><td>・　古い建物の建て替えや改築、空き家及び空き地の発生等により、歴史的なまちなみが消えつつあります。</td></tr>
<tr><td>交通</td><td>・　各地域と連絡する道路網が集中するとともに、公共交通が充実しています。</td><td>・　未着手の都市計画道路があります。
・　あいの風とやま鉄道と富山地方鉄道との乗換駅などはなく、両鉄道間の乗り換えには路線バス等での移動が必要です。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td></td><td>６－４　中心市街地
（２）地域の問題点・課題</td><td>６－４　中心市街地
（２）地域の問題点・課題</td></tr>
<tr><td>66</td><td>１）　産業・環境・景観
魅力的なまちをつくる
市街地中心部の既存商店街では、活力が全体として減退傾向にあり、空き家等の発生やシャッターを閉めたままの建物もみられます。
このため、日常生活に不可欠な機能を中心市街地に持たせるとともに、多様化・高度化するニーズに対応した都市機能の更新や導入を進めて、人が集まり、賑わいと活気に満ちた市街地に再生していく必要があります。
また、市街地は宿場町として栄えたことから、旧街道筋のまちなみや文化財など歴史的資源が多く残っていますが、改築等により古い建物が姿を変えているものもみられます。
宿場町や市の歴史を次世代に伝えるとともに、地域の歴史的文化的資源を活かした魅力的なまちづくりを通じて、市民の誇りや愛着を高めるとともに、来訪者に喜んでもらうことが重要と考えられます。
その他、市街地を流れる高橋川や黒瀬川は、市街地住民にうるおいを提供できる身近な空間として、親水化に向けての改善等が求められます。</td><td>１）　産業・環境・景観
魅力的でにぎわいのあるまちをつくる
市街地中心部では、郊外型商業施設の立地等の影響により、既存商店街が衰退傾向にあります。
一方、空き店舗を活用した新規出店に対する補助制度を利用して、新たに営業を開始するケースも散見され、中心市街地に一定のにぎわいがもたらされています。
このため、「黒部市立地適正化計画」に基づき、地域住民と行政が協働しながら、商業、医療、文化、行政などの都市機能を誘導するとともに、引き続き、空き家・空き店舗等の低未利用地の適切な土地利用を図るほか、文化・交流拠点となるくろべ市民交流センター「あおーよ」などを活用し、人が集まり、にぎわいと活気に満ちた市街地に再生していく必要があります。
また、市街地は、かつて北陸街道の宿場町として栄えていたことから、旧街道筋の建物や文化財などの歴史的資源が多く残っていますが、改築等により、歴史的な建物が姿を変え、北陸街道としてのまちなみが消えつつあります。
宿場町や本市の歴史を次世代に伝えるとともに、地域の歴史的資源を活かした魅力的なまちづくりを通じて、市民の誇りや愛着を高めることが必要です。あわせて、来訪者も魅力を感じることで、交流人口の拡大や移住・定住の促進につなげていくことが必要です。</td></tr>
</table>

No	現　行	見直し案
		そのほか、市街地を流れる高橋川や黒瀬川は、地域住民にうるおいを提供できる身近な親水空間として、魅力向上等が求められます。
67	２）　環境 安心して暮らせるまちをつくる 市街地では、人家が密集していることに加え、歩道の未整備な道路が多いなど、防災・安全面が十分ではないのが現状です。 このため、交通安全対策、防災対策を充実するとともに、バリアフリー化を推進するなど、子どもから高齢者まで誰もが歩いて暮らせる安心・安全なまちを実現し、生活の利便性の向上と併せて、まちなか居住を推進することが重要です。 また、幹線道路沿いは市街化が進行しているものの、後背地は道路が狭く農地がまとまって残る箇所がみられ、土地の有効活用が求められています。	２）　環境 安心して暮らせるまちをつくる 市街地では、民家が密集していることに加え、歩道が整備されていない道路もあるなど、防災・安全面が十分ではないのが現状です。 このため、交通安全対策、防災対策を充実するとともに、バリアフリー化を推進するなど、こどもから高齢者まで誰もが歩いて暮らせるまちを実現し、生活の利便性の向上と併せて、まちなか居住を推進することが重要です。 また、幹線道路沿いは、市街化が進行しているものの、後背地は道路が狭く農地が点在して残る箇所が見られ、土地の有効活用が求められます。 一方、「黒部市立地適正化計画」の防災指針において整理した災害リスクを踏まえ、水災害に強い市街地の形成が必要です。
68	３）　交通 新たな交通環境に対応する 各地域からの道路・公共交通が集積していますが、未着手の都市計画道路の存在とともに、ＪＲ北陸本線と富山地方鉄道本線が接続していないなど鉄道網が活かされていない面もあります。 このため、国道８号バイパスや新幹線新駅、及び都市計画道路新駅中新線などの整備によって生じる新たな交通環境に対応するため、２つの鉄道を活かしながら、広域的な交通網を確立していくことが求められます。	３）　交通 新たな交通環境に対応する 各地域と連絡する道路網が集中していますが、未着手の都市計画道路が存在することから、都市計画道路の整備促進が必要です。 また、公共交通網が比較的充実していますが、あいの風とやま鉄道と富山地方鉄道が接続していないことから、この間を結ぶ、バス交通等の更なる充実を図る必要があります。 さらに、国道８号入善黒部バイパス、黒部宇奈月温泉駅、（都）新駅中新線などの整備によって変化する道路・交通環境に対応するため、あいの風とやま鉄道と富山地方鉄道を活かしながら、広域的な交通網を確立していくことが求められます。 あわせて、外出機会の創出による健康づくりと中心市街地活性化の観点から、既存の公共交通では対応が難しい、よりきめ細やかな暮らしの足を確保することが必要です。そのため、環境に配慮し、誰でも気軽に利用できるグリーンスローモビリティとして、中心市街地において主要施設を巡る電動小型カートの導入などにより、出かけやすいまちづくりを進めることが必要です。

No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
	６－４　中心市街地　（３）地域の将来像	６－４　中心市街地　（３）地域の将来像	
69	≪充実した都市サービスが受けられる、 歩いて暮らせる安心・安全なまち≫ 三日市地区を核とする中心市街地については、「黒部市総合振興計画」の「扇状地のめぐみゾーン」の中の都市整備方針を踏まえ、周辺市町なども含めて広域的な都市サービスを提供する地域と位置づけ、商業、医療、文化、行政などの都市機能の充実を図ります。 居住環境の整備充実などにより住宅の立地促進に努めるとともに、既存駅の機能の充実、交通や火災の安全性の確保に努め「歩いて暮らせる安心・安全なまち」を目指します。 他の市街地との連携強化、新幹線新駅や幹線道路などとのアクセスの改善に努め、地域内のみならず、周辺からも利用しやすい広域的な都市核を目指します。	≪魅力的な都市機能が充実し、出かけやすい・出かけて楽しい、 にぎわいのある地域≫ 三日市地区を核とする中心市街地については、「黒部市立地適正化計画」に基づくコンパクトなまちづくりに向けて、商業、医療、文化、行政などの都市機能の充実を図ります。 また、他の地域との連携強化、黒部宇奈月温泉駅や幹線道路などとのアクセス性の向上に努め、地域内のみならず、周辺からも都市機能を利用しやすい広域的な都市拠点の形成を目指します。 さらに、住環境の整備・充実などにより、移住・定住の促進に努めるとともに、電動小型カートの導入などによる公共交通の充実を図り、「出かけやすい・出かけて楽しいまち」を目指します。	**【見直しの考え方】** ・全体構想及び以降の“まちづくりの方針”の内容を踏まえ修正・更新
	６－４　中心市街地　（４）まちづくりの方針 １）新川の中心地としてふさわしい賑わいある魅力的なまちの整備	６－４　中心市街地　（４）まちづくりの方針 １）魅力的でにぎわいのある中心市街地の形成	
70	黒部市及び新川地域の都市活動の中心として、商業、医療、文化、行政などの高次都市機能の充実・集積化を図り、魅力的な市街地の形成に努めるとともに、市内だけでなく広域からも利用者が集まるよう、駅から各施設へのアクセス向上や駐車場の確保等に努め、集客性の向上を目指します。	本市及び新川地域の都市活動の中心として、「黒部市立地適正化計画」で設定した都市機能誘導区域へ、商業、医療、文化、行政などの更なる都市機能の誘導を図り、生活利便性の向上と魅力的な市街地の形成に努めるとともに、地域住民はもとより、地域外の市民や市外からも利用者が集まるよう、鉄道駅から各施設へのアクセス性の向上や駐車場の確保等に努め、集客力の向上を図ります。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、魅力的な市街地の形成、集客力の向上を図る
71	併せて、住民主体の団体と協働しながら空き店舗対策や定期イベントの実施・充実などを図り、賑わいと活気あるまちを目指します。	また、地域住民や関係団体と協働しながら、空き店舗を活用した新規出店に対する補助制度などの利用を促進し、空き家・空き店舗等の低未利用地の適切な土地利用や定期イベントの実施・充実などを図り、にぎわいと活気あるまちづくりを推進します。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続
72	－	さらに、くろべ市民交流センター「あおーよ」は、市民が集い学ぶ文化・交流の拠点であり、市民の交流を積極的に推進し、もって新たな価値を創造するとともに、市民の主体的な活動を推進し、もって市民協働を実現し、さらには未来の黒部市を担う人材を育成する場の提供及びまちなかのにぎわい創出が期待されています。また、複合施設の特性を活かし、①図書館を核とした、②子育て支援、③生涯学習、④市民活動、⑤移住・定住・人つなぎの５機能の連携を図るとともに、利用者や団体の交流による新たな発想を生み出す機能融合（クロスアシスト）事業を展開することで、更なるにぎわい創出が期待されています。 あわせて、くろべ市民交流センター「あおーよ」において実施される各種事業と連携を図りながら、中心市街地のにぎわいを創出します。 加えて、憩いの場として整備した、くろべ市民交流センター「あおーよ」の広場など、にぎわいの拠点において、緑を増やす取組を検討するとともに、パッシブタウンのように、計画的に緑が整備された施設もあることから、こうした拠点を散歩して楽しめる方は散歩して、長距離を歩くことが困難な方には、電動小型カートを利用することで、緑を気軽に楽しめる「出かけやすい・出かけて楽しいまちづくり」を推進します。	・全体構想を踏まえ新たに追記

No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
73	市街地内では旧街道のまちなみや文化財など歴史的資源が多く残っていることから、整備にあたっては、それらの保全と積極的な活用を図ることにより、地域の歴史が感じられる個性的で魅力的なまちを実現します。	一方、市街地内では、宿場町として栄えた旧街道筋の街並みや文化財など、歴史的資源が多く残っていることから、住民との協働を基本としながら、景観法等に基づく制度の活用を検討し、それらの保全と積極的な活用を図ることにより、地域の歴史が感じられる個性的で魅力的なまちづくりを推進します。	**【問題点・課題】** ・特になし（実際の回答は“回答困難”） **【見直しの考え方】** ・事業進捗や実現可能性を見据えた表現に修正
74	また高橋川や黒瀬川など市街地を流れる河川を活用し、市街地住民の集いや憩いの場となるよう親水空間の整備や河川沿いの緑化などに努め、自然を身近に感じられるまちを目指します。	このほか、高橋川や黒瀬川など、市街地を流れる河川を活用し、市街地住民の集いや憩いの場となるよう、地域住民や関係団体と協働した取組を推進するとともに、親水空間の整備や河川沿いの緑化など、良好な河川環境や景観の向上に努め、自然を身近に感じられるまちづくりを推進します。	**【問題点・課題】** ・二級河川沿いの整備に伴い、一部地区において地元での維持管理や行事等での利用が見られ、地域の活性化に寄与 **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、親水空間の整備や河川沿いの緑化などによる自然を身近に感じられるまちの形成
	６－４　中心市街地　（４）まちづくりの方針 **２）子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちの整備**	**６－４　中心市街地　（４）まちづくりの方針** **２）こどもから高齢者まで安心して暮らせるまちの整備**	
75	黒部市の中心としてふさわしく、子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らせる環境を実現するため、歩行者の安全確保、市民病院の機能拡充による地域医療体制の充実、各種施設のバリアフリー化を重点的に進めます。	本市の中心としてふさわしく、こどもから高齢者まで誰もが安心して暮らせる環境を実現するため、歩行者の安全確保、地域医療体制の充実、市民や観光客などが多く集まる施設のバリアフリー化を重点的に進めます。	**【問題点・課題】** ・マウンドアップ方式による歩道のバリアフリー化には、沿線の既存住宅等との高さ調整が必要であり、建物連坦区間においては調整が困難 ・各施設のバリアフリー化は、引き続き進めていくことが必要 **【見直しの考え方】** ・今後も継続
76	また、良好な都市環境を提供するとともに新たな都市居住の拠点の形成を図るため、三日市保育所周辺土地区画整理事業など市街地開発事業の促進や都市施設等の整備充実に努めます。	また、「黒部市立地適正化計画」で設定した居住誘導区域を中心に居住誘導を図るとともに、新たな都市居住の拠点の形成を図るため、「三日市保育所周辺土地区画整理事業」を推進するなど、市街地開発事業の促進や都市施設等の整備充実に努めます。	**【問題点・課題】** ・立地適正化計画に基づき、都市施設等の整備・誘導が必要 **【見直しの考え方】** ・「黒部市立地適正化計画」との整合性を図るため、内容の充足
77	その他、冬期間の除雪体制の充実、空き地や水辺を活用した公園・緑地の整備、防災対策の充実など市街地環境の向上を図ります。	さらに、空き地や公共施設の跡地などを活用した公園・緑地の適切な配置の検討など、市街地環境の向上を図ります。 あわせて、水災害に強い市街地を実現するため、「黒部市立地適正化計画」の防災指針に基づく防災・減災対策の取組を推進します。	**【問題点・課題】** ・機械除雪については、除雪機械を運転するオペレーターの高齢化や後継者不足、市の貸与している機械の老朽化への対応が必要 ・公園・緑地の新規整備や再編に関する計画はなく、公共施設の跡地利用も踏まえ、検討が必要 **【見直しの考え方】** ・雪対策の強化に向けた内容の充足、事業進捗や実現可能性を見据えた表現に修正

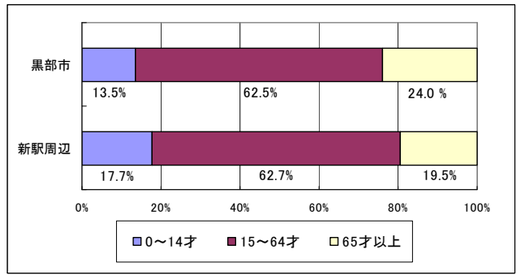
No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
78	なお、営農意欲の高いカドミウム汚染復元田については、用途地域からの除外を検討します。	削除	・全体構想を踏まえ、記述の削除
	６－４　中心市街地　（４）まちづくりの方針 ３）都市間・地域間の連携を強化する交通ネットワークの形成	６－４　中心市街地　（４）まちづくりの方針 ３）都市間・地域間の連携を強化する道路・交通環境の形成	
79	２つの鉄道網を活かし、新幹線も含む公共交通利用の利便性を一層向上させるため、円滑な乗換え等利便性を高める施策を検討するとともに、駅へのアクセス性向上のための施策として、国道８号バイパスからの連絡向上、パーク＆ライドに対応した駐車場（駅西）の整備などを検討します。	「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」を進める観点から、北陸新幹線、あいの風とやま鉄道及び富山地方鉄道の鉄道網を活かすとともに、それらを補完するバス交通網も含む公共交通の利便性を一層向上させるため、円滑な乗換え等利便性を高める施策を検討します。 また、黒部駅の西側においては、国道８号入善黒部バイパスの開通や商業施設の出店などの活発な土地利用が進められていることから、駅西側からのアクセスを考慮して、西側出口等の整備やバリアフリー化による駅の利便性向上を図るため、駅施設整備事業を計画的に進めます。 さらに、駅へのアクセス性向上のための施策として、国道８号入善黒部バイパスからの連絡向上について検討します。	**【問題点・課題】** ・黒部駅の施設整備事業には、非常に大きな費用が想定されることから、費用対効果の検証や、国の補助事業の活用などの検討が必要 **【見直しの考え方】** ・事業進捗や実現可能性を見据えた表現に修正
80	道路体系にあっては、国道８号バイパスなどの幹線道路や主要市街地等との連携の強化に努めるとともに、長期未着手となっている都市計画道路の見直しを検討します。	道路体系においては、国道８号入善黒部バイパスなどの幹線道路と中心市街地との連携の強化に努めます。 あわせて、地域間を結ぶ幹線道路については、必要性の高い路線を選択し、道路改良や歩行環境の整備等を促進するとともに、長期未着手となっている都市計画道路については、必要に応じて、見直しを検討します。	**【問題点・課題】** ・連携強化に向け、引き続き、関係機関との協議・調整が必要 **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、連携強化に向けた取組を進める ・「黒部市幹線道路網計画」との整合性を図り、内容を充足
81	－	このほか、無料公共自転車「ちょいのり黒部」について、利用状況や今後の需要を考慮しながら、新たなステーション（駐車場）の整備を検討します。 また、中心市街地の回遊性を高め、市民の日常生活における暮らしの足を充実させるため、市役所、市民病院、くろべ市民交流センター「あおーよ」、パッシブタウン、商業施設などの拠点を結ぶ、電動小型カートの導入などにより、「出かけやすい・出かけて楽しいまちづくり」を推進します。	・全体構想を踏まえ新たに追記

No	現　行	見直し案
	６－５　新駅周辺 （１）地域の概況	６－５　新幹線駅周辺 （１）地域の概況
82	１）　地形・立地 本地域は、黒部ＩＣと、現在整備中の新幹線新駅の周辺地域で、荻生と若栗地区の一部からなる、概ね 180ha の地域です。	１）　地形・立地 本地域は、黒部宇奈月温泉駅と黒部ＩＣの周辺地域で、荻生地区と若栗地区の一部からなる、おおむね 170ha の地域です。
83	２）　歴史 地域は黒部川の度重なる氾濫がありましたが、河川整備やほ場整備等の基盤整備が進められ、基本的には農業地としての利用が進められてきました。その後、北陸自動車道が開通し、黒部ＩＣが開設されると、広域交通の玄関口として機能してきています。 黒部ＩＣは、昭和 58 年に滑川ＩＣ・朝日ＩＣ間の開通により開設されました。その後、昭和 63 年に朝日ＩＣ・名立谷浜ＩＣ間の暫定２車線開通で関東方面との連絡向上が図られ、平成 12 年には全線４車線化されました。 現在は、黒部ＩＣに近接して新幹線新駅が整備中であり、平成 26 年度末までに北陸新幹線が開業予定となっています。併せて、富山地方鉄道本線の新駅も整備が進められています。	２）　歴史 本地域は、黒部川の度重なる氾濫がありましたが、河川整備やほ場整備等の基盤整備が進められ、農業地を基本とした利用が進められてきました。その後、北陸自動車道が開通し、黒部ＩＣが開設されると、広域交通の玄関口として機能してきています。 黒部ＩＣは、昭和 58 年に滑川ＩＣ・朝日ＩＣ間の開通により開設されました。その後、昭和 63 年に朝日ＩＣ・名立谷浜ＩＣ間の暫定２車線開通で関東方面との連絡向上が図られ、平成 12 年には全線４車線化されました。 平成 27 年には、北陸新幹線長野駅～金沢駅間の延伸開業にあわせ、黒部ＩＣに近接して黒部宇奈月温泉駅が開業しました。また、富山地方鉄道の新黒部駅も近接して整備されています。
84	３）　人口・世帯数 上街道沿いの住宅が一部含まれています。地域の人口は、減少しています。 人口・世帯数等の推移 年齢階層別人口割合（平成 17 年） 人口の推移及び推計・目標値	３）　人口・世帯数 本地域では、人口が減少し、世帯数が増加しているため、平均世帯人員は減少しており、核家族化の進行がうかがえます。また、人口密度が低下しています。このほか、国立社会保障・人口問題研究所の令和５年の人口推計では、目標年次の令和 25 年に約 580 人まで減少することが予測されています。 令和２年の年齢階層別人口割合については、15 歳未満が 10.8%、65 歳以上が 30.7%でおり、本市平均と比べ、高齢化の傾向は緩やかですが、年少人口の割合がやや低くなっています。 人口・世帯数等の推移 年齢階層別人口割合（令和２年） 人口の推移及び推計・目標値

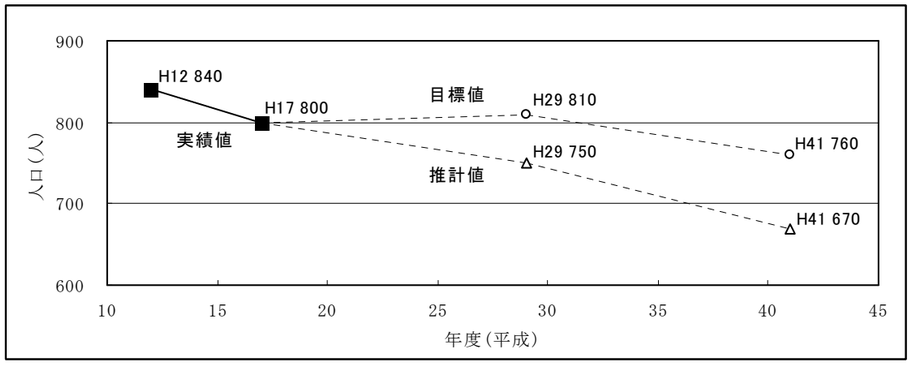
人口・世帯数等の推移

	平成12年	平成17年
人口（人）	840	800
世帯数（世帯）	210	210
人口密度（人/ha）	4.8	4.6
平均世帯人員（人/世帯）	4.0	3.8
人口推移（H12=100）	100	96

年齢階層別人口割合（平成 17 年）



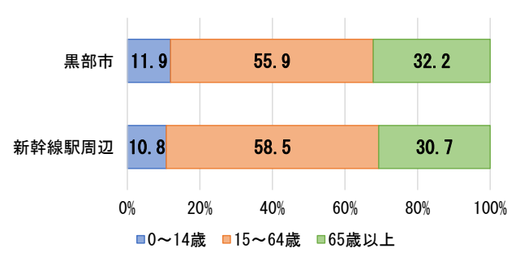
人口の推移及び推計・目標値



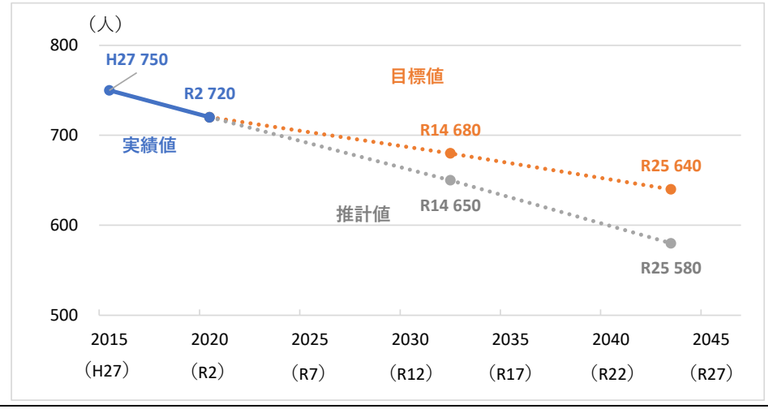
人口・世帯数等の推移

	平成27年	令和２年
人口（人）	750	720
世帯数（世帯）	230	240
人口密度（人/ha）	4.4	4.2
平均世帯人員（人/世帯）	3.3	3.0
人口推移（H27=100）	100	96

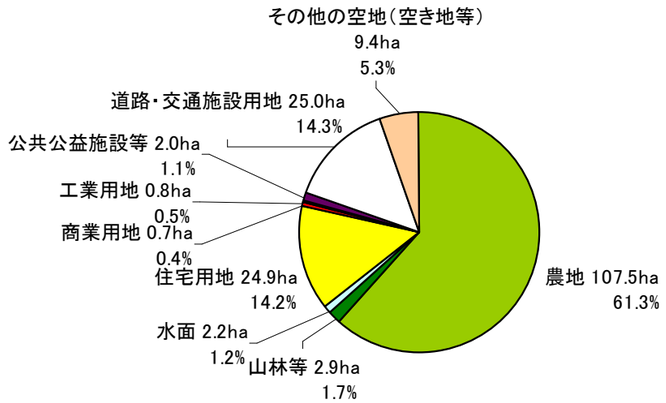
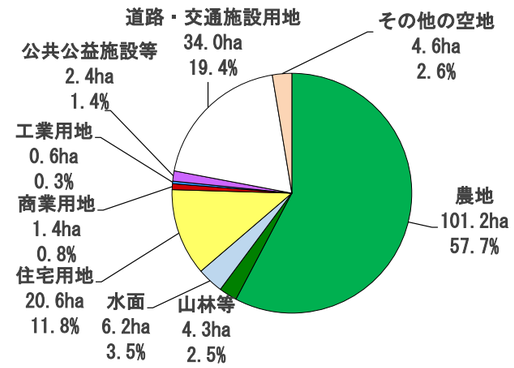
年齢階層別人口割合（令和２年）



人口の推移及び推計・目標値



推計値：国立社会保障・人口問題研究所の人口推計（日本の地域別将来推計人口（令和５年推計））より算出
目標値：黒部市人口ビジョン（令和２年改訂版）の目標値を参考に算出

No	現　行	見直し案
85	４）産業 現在は、水稲を中心とした農業地域となっています。	４）　産業 現在は、水稲を中心とした農業地域となっています。
86	５）　観光・交流 北陸新幹線開業により、県東部の玄関口となるとともに、本地域を拠点とした観光客の増加が期待されます。	５）　観光・交流 黒部宇奈月温泉駅の開業により、県東部の玄関口にふさわしい駅として、駅近接地には、各種施設が整備されています。 また、北陸新幹線については、令和６年に敦賀駅延伸開業が行われており、本市においても来訪者の増加が期待されます。
87	６）　交通 新幹線新駅の開業によって新しい黒部の玄関口となり、黒部ＩＣとともに、富山地方鉄道本線や主要道路等の都市内幹線が交差する交通結節点となります。 黒部ＩＣには、東京、仙台、新潟へ連絡する高速バスの停留所も備わっています。 新幹線新駅周辺に、新幹線からの乗り換えのため富山地方鉄道本線の新駅が設置されるとともに、新幹線新駅から海側に向けて都市計画道路新駅中新線が整備中です。	６）　交通 黒部宇奈月温泉駅の開業によって、鉄道網の新たな玄関口となり、黒部ＩＣとともに、富山地方鉄道や幹線道路等の都市内幹線が交差する交通結節点となっています。 黒部ＩＣには、東京、埼玉、新潟へ連絡する高速バスの停留所が備わっているほか、黒部宇奈月温泉駅近接地には、新幹線からの乗り換えのため、富山地方鉄道の新黒部駅が設置されています。 また、黒部宇奈月温泉駅と連絡する（都）新駅中新線については、国道８号入善黒部バイパスまで開通しています。
88	７）　土地利用 現在は主に水稲を中心とした農地利用が中心で、住宅は農地に点在する散居形態となっています。新幹線新駅開業に伴って、将来、周辺の都市化圧力が高まることが予想されます。 土地利用の状況  	７）　土地利用 主に水稲を中心とした農地利用が中心で、住宅は農地に点在する散居形態となっています。 また、将来的に、黒部宇奈月温泉駅近接地の開発圧力が高まることが予想されます。 土地利用の状況 
89	８）　自然・景観等 北アルプス連峰の眺望や散居・田園などの景観は、この地域の資源として特筆されますが、新幹線新駅開業に伴う都市化圧力の高まりによって、景観阻害なども懸念されます。	８）　自然・景観等 北アルプスの眺望や田園・散居などの景観は、この地域の資源として特筆されますが、黒部宇奈月温泉駅近接地の開発圧力の高まりによって、景観阻害なども懸念されます。

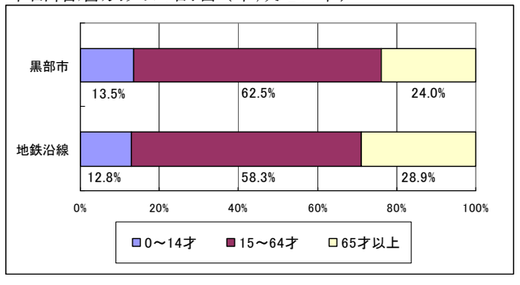
<table>
<tr><th>No</th><th>現　行</th><th>見直し案</th></tr>
<tr><td>90</td><td>新駅周辺の主な施設・資源等
<table><tr><td>交通環境</td><td>【公共交通】北陸新幹線新黒部駅（仮称）　富山地方鉄道本線
【道路網】黒部ＩＣ　県道黒部宇奈月線　県道下垣内前沢線
都市計画道路新駅中新線</td></tr><tr><td>地域資源</td><td>北陸街道上街道</td></tr><tr><td>文化財</td><td>天真寺松桜閣　天真寺の庭園　長安寺山門及び付属土塁　若栗城跡</td></tr><tr><td>景観特性</td><td>田園風景・北アルプス連峰の眺望　北陸街道の風景</td></tr></table></td><td>黒部宇奈月温泉駅周辺の主な施設・資源等
<table><tr><td>交通環境</td><td>【公共交通】北陸新幹線（黒部宇奈月温泉駅）
富山地方鉄道（新黒部駅、舌山駅）　路線バス（新幹線市街地線、新幹線生地線）　観光路線バス「アルペンライナー」
【道路網】北陸自動車道（黒部ＩＣ）　（主）黒部宇奈月線
（一）若栗前沢線　（都）新駅中新線　黒部宇奈月温泉駅東口広場
黒部宇奈月温泉駅南口広場　地鉄新黒部駅広場</td></tr><tr><td>主要施設</td><td>【公共施設】地域観光ギャラリー
【公園・緑地】黒部宇奈月温泉駅東公園　黒部宇奈月温泉駅西公園</td></tr><tr><td>地域資源</td><td>北陸街道（上街道）</td></tr><tr><td>文化財等</td><td>松桜閣　松桜閣の庭園　長安寺山門及び付属土塁
若栗城跡</td></tr><tr><td>景観特性</td><td>田園・散居景観　北アルプスの眺望　北陸街道の景観</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>91</td><td><table><tr><th></th><th>強み</th><th>弱み</th></tr><tr><td>交通</td><td>・　広域交通と都市内幹線が交差する交通結節点となります。</td><td>・　接続する富山地方鉄道本線の利用者が減少傾向を示しています。</td></tr><tr><td>観光
・交流</td><td>・　本地域を拠点として観光客の増加が期待されます。</td><td>・　逆に、素通り化の懸念もあります。</td></tr><tr><td>景観</td><td>・　美しい田園風景や北アルプス連峰の眺望を有しています。</td><td>・　周辺の都市化圧力の高まりと景観の阻害等が懸念されます。</td></tr></table></td><td><table><tr><th></th><th>強み</th><th>弱み</th></tr><tr><td>交通</td><td>・　鉄道網における新たな玄関口として機能するとともに、海側や山側方面に連絡する道路網が整備された交通結節点となっています。</td><td>・　近年、接続する新黒部駅のほか、新幹線市街地線及び新幹線生地線の利用者数が減少傾向を示しています。</td></tr><tr><td>観光
・交流</td><td>・　北陸新幹線敦賀延伸開業により、来訪者の増加が期待されます。</td><td>・　外国人などの様々な利用者への対応など、観光情報機能の不足が懸念されます。</td></tr><tr><td>景観</td><td>・　美しい田園・散居景観や北アルプスの眺望が見られます。</td><td>・　周辺の開発圧力の高まりによる景観の阻害等が懸念されます。</td></tr></table></td></tr>
<tr><td></td><td>６－５　新駅周辺
（２）地域の問題点・課題</td><td>６－５　新幹線駅周辺
（２）地域の問題点・課題</td></tr>
<tr><td>92</td><td>１）　交通
円滑な交通体系を構築する
交通結節点として、市内だけでなく広域的な交通網を確立し、円滑な乗り換えや、アクセスを確保する必要があります。</td><td>１）　交通
円滑な交通体系を構築する
新川地域における交通拠点として、市内だけでなく、広域的な道路交通網を充実させるとともに、新黒部駅での円滑な乗換えに努め、各地域へのアクセス性の向上を図ることが必要です。</td></tr>
</table>

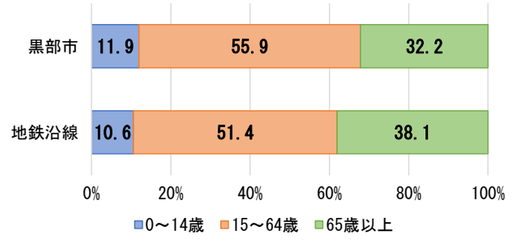
No	現　行	見直し案
93	２）　観光 的確な観光情報を提供する 　観光ニーズや観光流動の変化に対応しながら、増加すると予想される来訪者に対して、広域的な観光・地域情報を的確に提供していくことが重要になります。	２）　観光 多様なニーズに対し、的確な観光情報を提供する 　来訪者の様々な観光ニーズや北陸新幹線敦賀延伸開業などの変化に対応しながら、増加すると予想される来訪者に対して、広域的な観光・地域情報を的確に提供していくことが必要です。
94	３）　交流 県東部の玄関にふさわしい広域機能を導入する 　来訪者の利便性を向上させるとともに、広域交通の拠点として必要性の高い商業・業務等の機能について、立地誘導を図ることが必要です。	３）　交流 県東部の玄関口にふさわしい機能を導入する 　本地域の産業の基盤である農地の保全を前提としつつ、黒部宇奈月温泉駅近接地については、広域交通の拠点として、来訪者の更なる利便性向上を図るため、商業・業務等の機能について、備えていくことが必要です。
95	４）　景観 地域の景観を保全する 　周辺に広がる田園風景や北アルプス連峰の眺望など、本市ならではの優れた景観を保全するとともに、建造物の規制など景観対策に万全を期す必要があります。	４）　景観 地域の景観を保全する 　本地域の中央部に広がる田園や北アルプスの眺望など、本市ならではの優れた景観を保全するとともに、地域住民等の参画を基本としながら、景観対策を検討することが必要です。

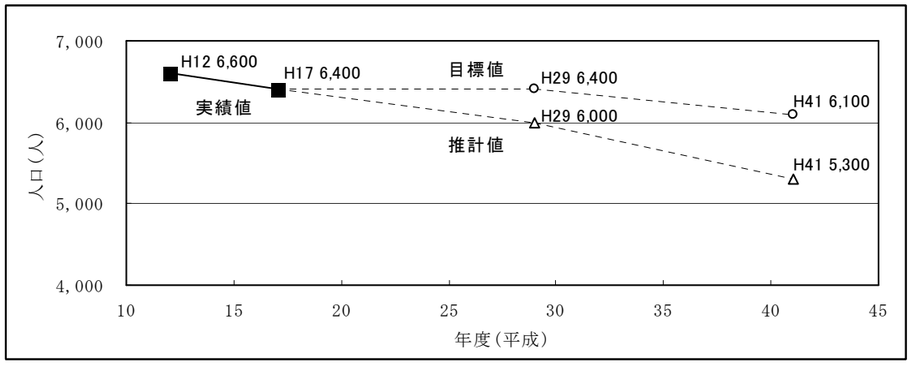
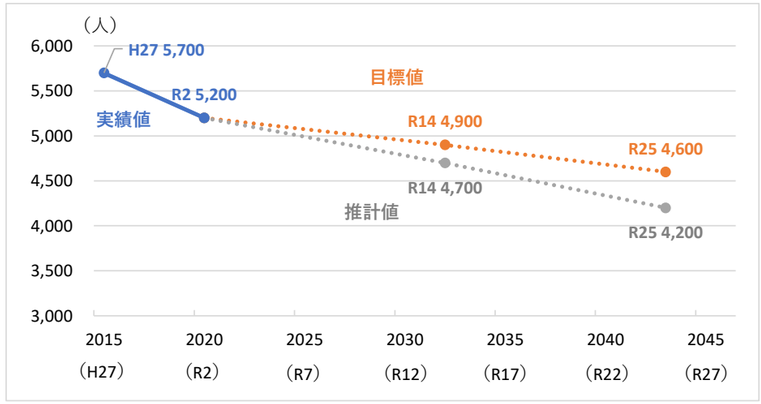
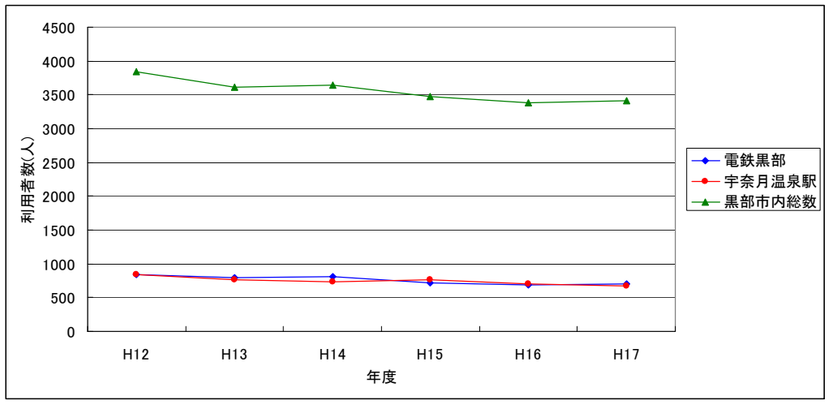
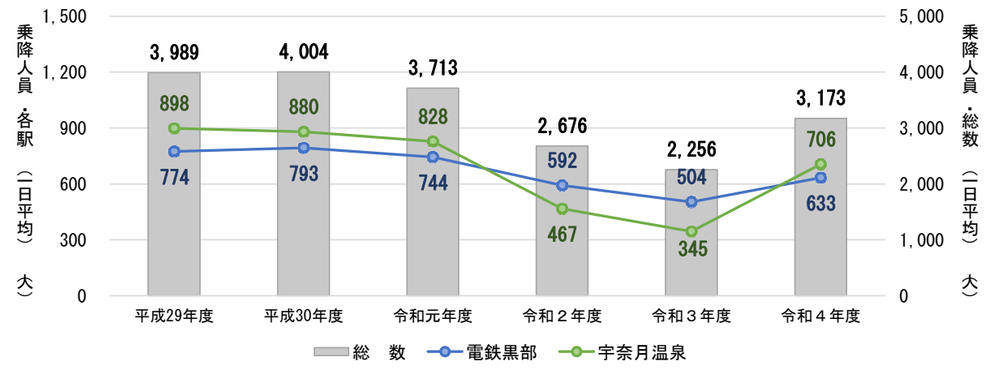
No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
	６－５　新駅周辺　（３）地域の将来像	６－５　新幹線駅周辺　（３）地域の将来像	
96	≪広域的な交通と観光の中核エリア≫ 新幹線新駅周辺は、南北方向を連絡する北陸新幹線や北陸自動車道の広域交通と、海岸線と山間部を連絡する富山地方鉄道本線や主要道路等の都市内幹線が交差する交通結節点であり、黒部市だけでなく県東部を対象とした交通の要衝でもあります。 本地域は新川地域の魅力が満喫でき、来訪者を魅了する観光と交流の拠点として位置づけ、県東部の玄関にふさわしい駅周辺環境を創出するものとします。	≪県東部の玄関口にふさわしい広域的な観光・交通の拠点となる地域≫ 黒部宇奈月温泉駅及び駅近接地は、北陸新幹線、北陸自動車道、富山地方鉄道、主要幹線道路等が交差する交通結節点であり、本市だけでなく、県東部における交通の要衝でもあります。 駅近接地については、来訪者を魅了する観光と交流の拠点として位置付けるとともに、県東部の玄関口にふさわしい環境を創出します。	**【見直しの考え方】** ・全体構想及び以降の“まちづくりの方針”の内容を踏まえ修正・更新
	６－５　新駅周辺　（４）まちづくりの方針 １）新幹線新駅と各地区を円滑に連絡する交通網の確保	６－５　新幹線駅周辺　（４）まちづくりの方針 １）黒部宇奈月温泉駅と各地域を円滑に連絡する道路・交通網の充実	
97	新幹線新駅では富山地方鉄道本線とのスムーズな乗り換えのため、施設や接続する公共交通の充実改善を図るとともに、自動車利用者のための駐車場の確保に努めます。	黒部宇奈月温泉駅近接地については、駅利用者の利便性向上のため、新黒部駅などの交通結節機能の充実を図るとともに、北陸新幹線大阪延伸を見据え、交通広場や駐車場等の駅近接地における施設や土地利用の在り方について、必要な検討を行います。	**【問題点・課題】** ・開業から９年が経過しており、駅周辺の在り方について、検討していくことが必要 **【見直しの考え方】** ・第２次黒部市総合振興計画に基づく、交通拠点としての位置付け強化
98	道路体系においては、各地区からの連携を強化させるため、国道８号バイパス、都市計画道路新駅中新線の整備促進及び宇奈月方面への延伸を検討するほか、黒部ＩＣや周辺の幹線道路からのアクセス道路の整備など連絡の向上に努めます。	道路体系においては、各地区からの連携を強化するため、黒部宇奈月縦貫道路の一部区間を担う（都）新駅中新線について、関係機関と協議しながら、延伸の必要性や効果を検証するとともに、黒部ＩＣや周辺の幹線道路からのアクセス道路の整備など、連絡の向上に努めます。	**【問題点・課題】** ・黒部宇奈月縦貫道路の整備促進等により、安全な道路交通ネットワークの構築が必要 **【見直しの考え方】** ・広域幹線道路と主要幹線道路・幹線道路との連携強化（構想路線の実現など）に向けた内容の充足
99	また、黒部ＩＣでは高速バス利用者の利便性向上のため、パーク＆ライドに対応した駐車場の整備を運行事業者とともに検討していきます。	また、黒部ＩＣでは、高速バス利用者の利便性向上のため、パーク＆ライドに対応した駐車場の整備を運行事業者とともに検討します。	**【問題点・課題】** ・需要を考慮しながら、実現可能性を見据え、必要に応じて、整備を検討 **【見直しの考え方】** ・今後も継続
	６－５　新駅周辺　（４）まちづくりの方針 ２）来訪者に適切な情報を伝える観光拠点の整備	６－５　新幹線駅周辺　（４）まちづくりの方針 ２）来訪者に多様で適切な情報を伝える観光拠点	
100	新幹線新駅に観光案内所やイベントスペース等を整備し、外国人観光客も含めて、適切な観光・地域情報の提供に努めます。	地域観光ギャラリー等については、外国人観光客も含めて、多様で適切な観光・地域情報の提供に努めます。また、テレワークスペースを設置し、ワーケーションなどで市内を訪れたテレワーカーが快適に仕事ができる場所を提供します。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続

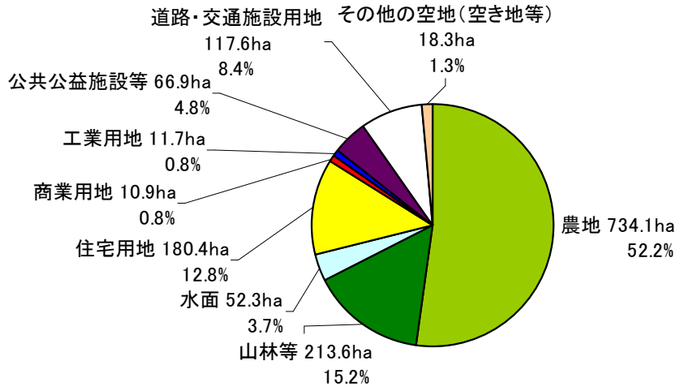
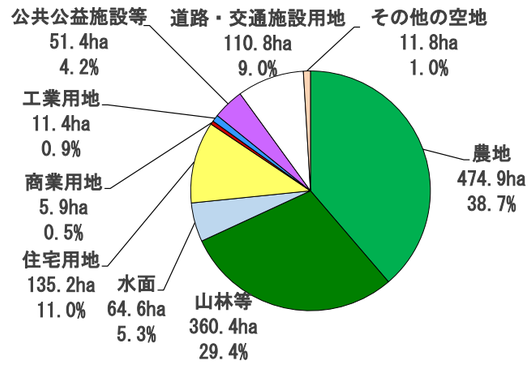
No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
101	また、新幹線新駅を観光拠点として機能させるため、広域観光ネットワークの整備・導入を図ります。	また、立山地域への直通バスなど、市内外の観光地と連絡するバス路線の利用促進を図り、黒部宇奈月温泉駅を観光拠点として機能させるため、広域観光ネットワークの充実に努めます。 　さらに、観光の一環として、駅を拠点としたサイクリング観光の推進に努めます。	**【問題点・課題】** ・広域連携自治体によるネットワークは構築済のため、表現の見直しが必要（「充実」とすべき） ・新幹線生地線及びアルペンライナーについては、観光客や旅行会社の認知度が低く、効果的な周知が必要 **【見直しの考え方】** ・事業進捗を踏まえた表現に修正、観光・交流の推進に向けた内容の充足
	６－５　新駅周辺　（４）まちづくりの方針 **３）県東部の玄関口にふさわしい機能の導入**	**６－５　新幹線駅周辺　（４）まちづくりの方針** **３）県東部の玄関口にふさわしい機能の導入**	
102	広域交通の拠点にふさわしい交流・商業・業務機能等の導入と適正立地のために、計画段階より地域住民等の参画を図りながら地区計画等の策定を検討し、新幹線開業に伴う開発需要への適切な対応に努めます。	黒部宇奈月温泉駅近接地は、広域的な観光・交通の拠点にふさわしい交流・商業・業務機能等を備えていくことが必要であり、民間企業における開発需要に対しては、周辺景観との調和を図りながら、適切な対応に努めます。	**【問題点・課題】** ・黒部宇奈月温泉駅周辺の開発需要については、駅舎のデザインコンセプト「見えない駅・魅せる駅」を念頭に置き、駅周辺景観との調和を図りながら、適切に対応することが必要 **【見直しの考え方】** ・交流・商業・業務機能については、市はこれまで、ふれあいプラザや地域観光ギャラリー等を整備したほか、駅東側利用者利便ゾーンにおいて、商業施設三店舗を誘致するなど、駅周辺に必要な機能は、おおむね整備・誘致したところであり、今後は、民間開発の動きに対し適切に対応
103	―	また、黒部宇奈月温泉駅の東西に整備された公園については、駅周辺整備のコンセプトに沿って景観を維持しながら、機能の充実について必要な検討を行います。	・全体構想を踏まえ新たに追記
	６－５　新駅周辺　（４）まちづくりの方針 **４）駅周辺にふさわしく愛される良好な景観の形成**	**６－５　新幹線駅周辺　（４）まちづくりの方針** **４）周辺と調和した良好な景観の保全**	
104	駅は周囲の風景に溶け込み、駅内部からは新川の美しい山並みや田園風景が一望できる「見えない駅・魅せる駅」をコンセプトとしながら、周辺に広がる田園景観や北アルプス連峰の眺望の保全に努めます。このため、地域住民等の参画を基本としながら、住民の意識レベルや開発動向を踏まえて、地域の実態に即した各種制度の活用を検討するものとし、必要に応じて地区計画、景観協定、屋外広告物の規制に努めます。	黒部宇奈月温泉駅は、周囲の景観に溶け込み、駅内部からは新川の美しい山並みや田園景観が一望できます。 　駅舎のデザインコンセプトである「見えない駅・魅せる駅」を念頭に置きながら、地域内に広がる田園景観や北アルプスの眺望の保全に努めます。 　このため、富山県景観条例、富山県屋外広告物条例等の周知を図り、眺望や景観を保全するとともに、地域住民等の参画を基本としながら、住民の意識レベルや開発動向を踏まえて、地域の実態に即した各種制度の活用を検討します。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、周辺に広がる田園景観や北アルプスの眺望の保全に向けた取組の実施

<table>
<tr><th>No</th><th>現　行</th><th>見直し案</th></tr>
<tr><td></td><td>６－６　地鉄沿線
（１）地域の概況</td><td>６－６　地鉄沿線
（１）地域の概況</td></tr>
<tr><td>105</td><td>１）　地形・立地
本地域は、富山地方鉄道本線の沿線に位置し、歩いて地鉄駅に向かうことができる（主）黒部宇奈月線より南側の、概ね面積 1,400ha の地域です。（なお、電鉄石田駅は海岸部、電鉄黒部駅・東三日市駅は中心市街地、舌山駅は新駅周辺、宇奈月温泉駅は宇奈月温泉の地域に属する）。
地域は、荻生、若栗、浦山、下立、内山の一部の地区で、集落は富山地方鉄道本線と併行する主要道路にそって分布しています。</td><td>１）　地形・立地
本地域は、（主）黒部宇奈月線と並行して走る富山地方鉄道の沿線に位置し、歩いて地鉄駅を利用することができる一帯で、おおむね 1,220ha の地域です（電鉄石田駅は海岸部、電鉄黒部駅・東三日市駅は中心市街地、新黒部駅・舌山駅は新幹線駅周辺、宇奈月温泉駅は宇奈月温泉の地域に属する）。
地域は、荻生、若栗、浦山、下立、内山及び音沢の一部の地区で、集落は富山地方鉄道と並行する幹線道路に沿って分布しています。</td></tr>
<tr><td>106</td><td>２）　歴史
地域内の愛本地区より下流側では北陸街道の上街道が通り、黒部川の洪水の影響が少ない街道沿いに集落が形成されました。このうち、浦山地内は宿場町として発展しました。
富山地方鉄道本線は、黒部川の電源開発のため、黒部鉄道として大正 11 年に三日市・下立間、翌年に下立・桃原間（現．宇奈月温泉）が敷かれ、当初は専用軌道の予定でしたが、地域住民の要望により地方鉄道として存線することとなりました。</td><td>２）　歴史
地域内の愛本地区から下流側では、北陸街道の上街道が通り、黒部川の洪水の影響が少ない街道沿いに集落が形成されました。このうち、浦山地内は宿場町として発展しました。
富山地方鉄道は、黒部川の電源開発のため、黒部鉄道として大正 11 年に三日市・下立間、翌年に下立・桃原間（現．宇奈月温泉）が敷かれ、当初は専用軌道の予定でしたが、地域住民の要望により、地方鉄道として存線することとなりました。</td></tr>
<tr><td>107</td><td>３）　人口・世帯数
山あいの地区では、生活や交通の便がいい地域などへ人口が転出する傾向にあります。

人口・世帯数等の推移
<table><tr><th></th><th>平成12年</th><th>平成17年</th></tr><tr><td>人口(人)</td><td>6,600</td><td>6,400</td></tr><tr><td>世帯数(世帯)</td><td>1,980</td><td>1,990</td></tr><tr><td>人口密度(人/ha)</td><td>4.7</td><td>4.5</td></tr><tr><td>平均世帯人員(人/世帯)</td><td>3.3</td><td>3.2</td></tr><tr><td>人口推移(H12=100)</td><td>100</td><td>96</td></tr></table>
年齢階層別人口割合(平成 17 年)
</td><td>３）　人口・世帯数
本地域では、人口、世帯数ともに減少していますが、人口の減少がより顕著であることから、平均世帯人員は減少しており、核家族化の進行がうかがえます。また、人口密度が低下しています。このほか、国立社会保障・人口問題研究所の令和５年の人口推計では、目標年次の令和 25 年に約 4,200 人まで減少することが予測されています。
令和２年の年齢階層別人口割合については、15 歳未満が 10.6%、65 歳以上が 38.1%となっており、本市平均と比べ、特に 65 歳以上の割合が高く、少子高齢化が進んでいます。

人口・世帯数等の推移
<table><tr><th></th><th>平成27年</th><th>令和２年</th></tr><tr><td>人口(人)</td><td>5,700</td><td>5,200</td></tr><tr><td>世帯数(世帯)</td><td>1,920</td><td>1,880</td></tr><tr><td>人口密度(人/ha)</td><td>4.7</td><td>4.3</td></tr><tr><td>平均世帯人員(人/世帯)</td><td>3.0</td><td>2.8</td></tr><tr><td>人口推移(H27=100)</td><td>100</td><td>91</td></tr></table>
年齢階層別人口割合(令和２年)
</td></tr>
</table>

No	現　行	見直し案
	人口の推移及び推計・目標値  	人口の推移及び推計・目標値  推計値：国立社会保障・人口問題研究所の人口推計（日本の地域別将来推計人口（令和５年推計））より算出 目標値：黒部市人口ビジョン（令和２年改訂版）の目標値を参考に算出
108	４）　産業 愛本より下流の地域では、主に農業生産が行われています。	４）　産業 愛本から下流の地域では、主に農業生産が行われています。
109	５）　観光・交流 北陸街道上街道沿線に広がる寺社仏閣や、祭礼などの歴史・文化を活かした観光の取り組みが行われています。	５）　観光・交流 北陸街道の上街道沿線に点在する寺社仏閣や、祭礼などの文化資源を活かした取組が行われています。
110	６）　交通 集落に沿って走る富山地方鉄道本線は地域住民の足ですが、モータリゼーションの進展とともに、利用者は減少傾向を示しており、経営が厳しくなっています。 また、愛本駅と入善町・朝日町方面を結んでいた路線バスが廃止となったため、コミュニティバス（入善町・朝日町）が代わりに運行されています。 富山地方鉄道本線の利用客の推移  	６）　交通 集落に沿って走る富山地方鉄道は、地域住民の生活に欠かせない交通手段ですが、人口減少の本格化やライフスタイルの変化などにより、利用者数は減少傾向を示しており、経営が厳しくなっています。 また、バス路線については、愛本駅と入善町・朝日町方面を結ぶコミュニティバス（入善町・朝日町）のほか、愛本コミュニティタクシーが運行されています。 富山地方鉄道の乗降人員の推移 

No	現　行	見直し案
111	７）　土地利用 集落は富山地方鉄道本線と併行する主要道路に沿って形成されており、舌山駅周辺などでは住宅団地もつくられています。集落の周辺の主な土地利用は愛本より下流が農地、上流が山林等となっています。 主な公益施設は、内山に黒部市役所宇奈月庁舎、浦山に宇奈月小学校、下立に宇奈月中学校が立地しています。 主な観光施設としては、下立に「道の駅うなづき」があります。 土地利用の状況  	７）　土地利用 富山地方鉄道と並行する幹線道路に沿って集落が形成されています。 また、集落周辺の主な土地利用は、愛本から下流が農地、上流が山林等となっています。 主な公共公益施設等としては、内山地区に宇奈月サービスセンター、若栗地区に若栗小学校、浦山地区に宇奈月小学校、下立地区にうなづき友学館が立地しています。 主な観光施設としては、下立地区に「道の駅うなづき」があります。 土地利用の状況 
112	８）　自然・景観等 宿場町として発展した歴史を反映して、寺社仏閣や松・桜・銀杏などの古木が多数残るほか、祭礼など地域文化も数多く伝えられています。 富山地方鉄道本線の駅舎は、昭和初期に造られたものが一部現存していて、沿線の特徴的な風景になっています。 上街道として黒部川に架かっていた旧愛本橋（刎橋）は、岩国の錦帯橋、甲斐の猿橋とともに日本三大奇橋と言われており、その復元を望む声もあります。	８）　自然・景観等 宿場町として発展した歴史を反映して、寺社仏閣や松・桜・銀杏などの古木が多数残るほか、祭礼などの地域文化も数多く伝えられています。 富山地方鉄道の駅舎は、昭和初期に造られたものが一部現存しており、沿線の特徴的な景観になっています。 上街道として黒部川に架かっていた旧愛本橋（刎橋）は、岩国の錦帯橋、甲斐の猿橋とともに日本三奇橋と言われています。

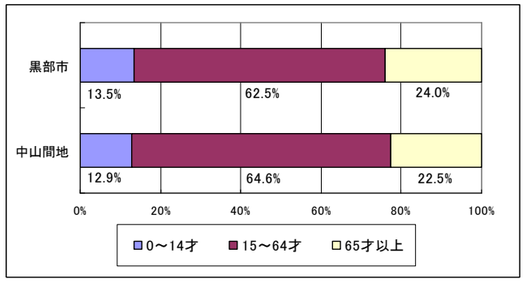
<table>
<tr><th>No</th><th>現　行</th><th>見直し案</th></tr>
<tr><td>113</td><td>
地鉄沿線の主な施設・資源等
<table>
<tr><td>交通環境</td><td>【公共交通】富山地方鉄道本線　入善町・朝日町コミュニティバス
【道路網】県道黒部宇奈月線　黒部朝日公園線　朝日宇奈月線</td></tr>
<tr><td>主要施設</td><td>【公共施設】黒部市役所宇奈月庁舎　富山地方鉄道各駅
道の駅うなづき（うなづき友学館・宇奈月麦酒館）　栃屋公園
東山公園　うちやま公園
【その他の施設】</td></tr>
<tr><td>地域資源</td><td>黒部川　旧愛本橋（日本三大奇橋）北陸街道上街道</td></tr>
<tr><td>文化財</td><td>明教院釈僧鎔慶叟の碑　月訪の桜</td></tr>
<tr><td>景観特性</td><td>北陸街道上街道の町並み　扇状地扇頂部からの眺め</td></tr>
</table>
</td><td>
地鉄沿線の主な施設・資源等
<table>
<tr><td>交通環境</td><td>【公共交通】富山地方鉄道（荻生駅、長屋駅、若栗駅、栃屋駅、
浦山駅、下立口駅、下立駅、愛本駅、内山駅、音沢駅）
愛本コミュニティタクシー
入善町営バス新屋線　あさひまちバス愛本線
【道路網】（主）黒部宇奈月線　（主）黒部朝日公園線
（主）朝日宇奈月線</td></tr>
<tr><td>主要施設</td><td>【公共施設】宇奈月サービスセンター　富山地方鉄道各駅
宇奈月麦酒館　うなづき友学館（歴史民俗資料館）
宇奈月体育センター　健康スポーツプラザ　宇奈月消防署
【公園・緑地】栃屋公園　東山公園　うちやま公園</td></tr>
<tr><td>地域資源</td><td>黒部川　旧愛本橋（日本三奇橋）　北陸街道（上街道）</td></tr>
<tr><td>文化財等</td><td>明教院釈僧鎔慶叟の碑　月訪の桜</td></tr>
<tr><td>景観特性</td><td>北陸街道上街道の町並み　扇状地扇頂部からの眺め
地鉄沿線の車窓からの眺め</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>114</td><td>
<table>
<tr><th></th><th>強み</th><th>弱み</th></tr>
<tr><td>人口</td><td></td><td>・ 山あいの地区において人口が減少しています。</td></tr>
<tr><td>交通</td><td>・ 徒歩などで身近に富山地方鉄道本線が利用できます。</td><td>・ 富山地方鉄道本線は利用者が減少傾向にあり、経営が厳しくなっています。</td></tr>
<tr><td>地域資源</td><td>・ 上街道とともに歩んだ歴史を有し、寺社仏閣や祭礼など歴史や地域の文化が多く残っています。</td><td>・ 地域文化の保存や史跡の活用が十分でない点もあります。</td></tr>
</table>
</td><td>
<table>
<tr><th></th><th>強み</th><th>弱み</th></tr>
<tr><td>人口</td><td>－</td><td>・ 山あいの地区においては、人口が減少しています。</td></tr>
<tr><td>交通</td><td>・ 駅周辺の住民は、富山地方鉄道の各駅まで、徒歩などでアクセスすることができ、身近に利用できます。</td><td>・ 富山地方鉄道のほか、愛本コミュニティタクシーなど、公共交通の利用者数が減少傾向を示しています。</td></tr>
<tr><td>地域資源</td><td>・ 上街道とともに歩んだ歴史を有し、寺社仏閣や祭礼などの歴史や地域文化が多く残っています。
・ 鉄道の沿線に沿って、緑豊かな田園景観が見られます。</td><td>・ 人口減少や高齢化等により、地域のつながりの希薄化が進行した場合、寺社仏閣や祭礼などの歴史や地域文化が、十分に活かされないことが懸念されます。</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

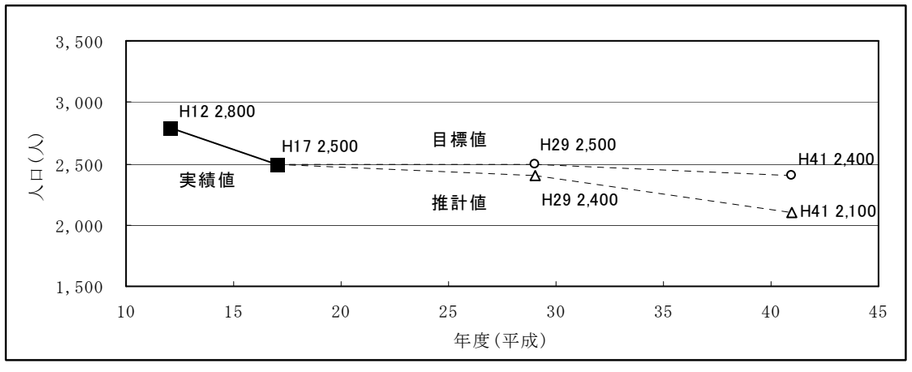
No	現　行	見直し案
	６－６　地鉄沿線 （２）地域の問題点・課題	６－６　地鉄沿線 （２）地域の問題点・課題
115	１）　人口 沿線人口の定着・増加を図る 山あいの地域などで生活や交通環境が整った地域等へ人口流出する傾向にあるため、住環境の改善等により人口流出を防ぐとともに、駅勢圏内の利便性の高い地区などで人口の増加を図ることが望まれます。	１）　人口 沿線人口の維持を図る 山あいの地域などでは、生活利便性が高い地域等へ移転する傾向にあるため、住環境の改善等により、人口の流出を防ぐとともに、駅周辺の利便性の高い地区などでは、人口の維持を図ることが必要です。
116	２）　交通 地鉄利用を増進する 富山地方鉄道本線は地域住民にとって利便性の高い公共交通ですが、沿線人口の減少やモータリゼーションの進展等により、利用者は長期的に減少しています。 路線の維持・存続のため、沿線人口の増加、乗り継ぎ施設の整備、ダイヤの改善などにより、利用者を増加させる必要があります。	２）　交通 地鉄の利便性向上による利用促進を図る 富山地方鉄道は、地域住民にとって生活に欠かせない交通手段ですが、沿線人口の減少やモータリゼーションの進展等により、利用者数は長期的に減少しています。 路線の維持・存続のため、沿線人口の維持とあわせ、鉄道利用者の増加を図ることが喫緊の課題となっています。
117	３）　地域資源 地域に根付いた歴史・文化を守る 地域内には、宿場町として発展した歴史を反映して、多数の歴史的資源や文化等が残っています。 地域の歴史を物語る史跡の保存活用を図るとともに、伝統文化等の継承に努めることが大切です。	３）　地域資源 地域に根付いた歴史・文化を守り活かす 地域内には、宿場町として発展した歴史を反映して、多数の歴史・文化資源が残っています。 本地域の歴史を物語る史跡の保存・活用を図るとともに、伝統・文化等の継承に努めることが必要です。

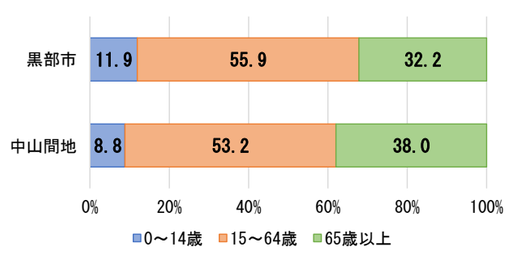
No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
	６－６　地鉄沿線　（３）地域の将来像	６－６　地鉄沿線　（３）地域の将来像	
118	≪鉄道の利便性が享受できる郊外住宅地≫ 本地域は、歴史ある集落を擁し、田園と丘陵地に抱かれて鉄道の利便性を享受できるゆとりの住宅地とし、鉄道沿線人口の確保と公共交通の充実・利用促進を図ります。	≪鉄道利用による中心市街地へのアクセス性が高く、 緑の中でゆとりある集落・郊外住宅地が形成された地域≫ 本地域は、緑豊かな田園や丘陵地の中に、富山地方鉄道沿線に形成された集落が点在していることから、これら田園や丘陵地と調和した集落の保全を目指します。 また、鉄道を基軸とした公共交通網の利便性を享受できるゆとりある住宅地を形成しながら、鉄道沿線人口の維持に努めるとともに、公共交通の利便性向上と利用促進を図ります。	**【見直しの考え方】** ・全体構想及び以降の“まちづくりの方針”の内容を踏まえ修正・更新
	６－６　地鉄沿線　（４）まちづくりの方針 １）富山地方鉄道本線の活性化を目指し沿線の住環境の整備	６－６　地鉄沿線　（４）まちづくりの方針 １）富山地方鉄道を活かした住環境の維持	
119	富山地方鉄道本線により商業施設や病院など都市機能が集積する中心市街地へのアクセスが容易な地域特性を活かしながら、家庭菜園など、ゆとりあるカントリー・ライフが楽しめる住環境を提供していきます。	「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」を進める観点から、富山地方鉄道の各駅周辺においては、中心市街地へのアクセスが容易な地域特性を活かしながら、家庭菜園など、ゆとりあるカントリー・ライフが楽しめる住環境を維持します。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、ゆとりあるカントリー・ライフが楽しめる住環境の提供
120	整備にあたっては、駅周辺への住宅立地の誘導・集約化を計画的に進めるため、地区計画制度等を活用するとともに、同時に下水道など基盤施設の整備充実に努めるほか、必要な公共公益施設や日常利便施設の充実に努めます。	また、鉄道駅周辺における住環境や沿線人口を維持するため、鉄道を基軸とした公共交通網の維持、利用促進に向けた取組、まちづくりと連動した交通環境の整備を進めます。 さらに、地域住民の生活に必要な公共施設や生活利便施設の維持などに努めます。	**【問題点・課題】** ・公共公益施設や日常利便施設については、「黒部市立地適正化計画」との整合が必要 **【見直しの考え方】** ・事業進捗や実現可能性を見据えた表現に修正
	６－６　地鉄沿線　（４）まちづくりの方針 ２）公共交通の利便性向上による地域の活性化	６－６　地鉄沿線　（４）まちづくりの方針 ２）公共交通の利便性向上による地域の活性化	
121	恵まれた鉄道網を活かした「コンパクトなまちづくり」を推進するため、鉄道の適切な運営方式等の検討を進めるなど鉄道の存続に努めるとともに、ＮＰＯ法人を主体とした鉄道利用促進施策の実施や観光地との連携などにより、市民や観光客などの意識・関心を高め、利用客の増進に努めます。	「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」を推進するため、鉄道の存続に資する取組を継続的に実施するとともに、ＮＰＯ法人を主体とした鉄道の利用を促進する施策の実施や観光地との連携などにより、市民や観光客などの意識・関心を高め、利用者数の増加に努めます。	**【問題点・課題】** ・沿線人口の減少、コロナ禍、燃料高騰等の社会情勢の変化に対応しながら、引き続き、鉄道を維持していく取組が必要 ・利用啓発の継続に対し、更なる市民理解が必要 **【見直しの考え方】** ・公共交通の利用促進に向けた内容の充足
122	併せて、歴史を感じさせる駅舎のイメージを保持しながら、トイレ、自転車駐車場、取付け道路など、駅舎とその関連施設の整備を促進するとともに、地域住民などと協働しながら、トイレなどの施設の美化活動を推進します。	また、歴史を感じさせる駅舎のイメージを保持しながら、利用状況などを考慮した上で、トイレ、自転車駐車場、取付け道路など、駅舎とその関連施設の整備を促進するとともに、地域住民などと協働しながら、トイレなどの施設の美化活動を推進します。	**【問題点・課題】** ・駅の利用頻度を踏まえたトイレ整備が必要 **【見直しの考え方】** ・公共交通の利用促進に向けた内容の充足
123	また、駅舎は地区のシンボル的な施設としての交流機能等の充実に努めるとともに、ＪＲ北陸本線との乗換え向上、運行ダイヤの充実、バス等の連携など、通勤・通学や中心市街地への買物・通院などの利便性の向上を図ります。	さらに、運行ダイヤの充実のほか、路線バス、コミュニティ交通等との連携強化や、サイクルトレインの利用促進など、通勤・通学や中心市街地への買物・通院などの利便性の向上を図ります。	**【問題点・課題】** ・鉄道駅に向かう移動手段としては、自家用車が圧倒的に多いため、路線バスの利用促進が必要 **【見直しの考え方】** ・公共交通の利用促進に向けた内容の充足

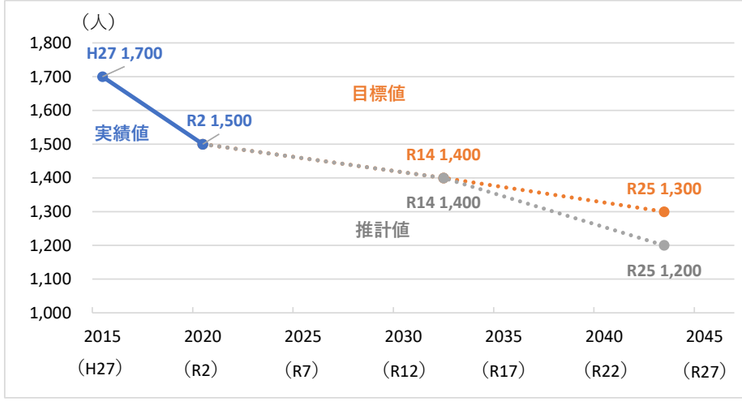
No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
	６－６　地鉄沿線　（４）まちづくりの方針 ３）沿線の歴史・文化の保全・活用	６－６　地鉄沿線　（４）まちづくりの方針 ３）沿線の歴史・文化の保全・活用	
124	地域に残る歴史・文化を継承していくため、交流センター等の充実と併せて、小学校跡地を活用したコミュニティ施設等の整備を推進します。	地域に残る歴史・文化を継承するとともに、地域コミュニティを維持していくため、沿線の公共施設を活用した交流を推進します。	**【問題点・課題】** ・公民館は整備済で、交流の場として活用 **【見直しの考え方】** ・事業進捗を踏まえた表現に修正
125	また、鉄道利用客促進施策などを活用した沿線の歴史・文化めぐり等を充実し、歴史を感じさせる駅舎や寺社仏閣、古木などの地域資源の再認識や祭礼など文化の普及に努めていきます。	また、沿線の歴史・文化めぐりのほか、歴史を感じさせる駅舎や寺社仏閣、古木などの地域資源を再認識するとともに、祭礼など、文化の普及に努めます。	**【問題点・課題】** ・少子高齢化等の現状を踏まえ、継承の方策を検討しながら今後も継続 **【見直しの考え方】** ・今後も継続
126	その他、地域は新幹線新駅から宇奈月温泉などの観光地へのアプローチ部となることから、車窓や幹線道路からの景観の向上を努めるよう促していきます。	このほか、本地域は、黒部宇奈月温泉駅から宇奈月温泉などの観光地へのアプローチ部となることから、富山県景観条例等に基づき、車窓や幹線道路からの景観の保全に努めます。	**【問題点・課題】** ・景観維持は、現行法令で対応しており、景観向上は、今後検討が必要 **【見直しの考え方】** ・現行法令に基づきながら、地鉄沿線の良好な景観形成に向けた内容の充足

<table>
<tr><th>No</th><th>現　行</th><th>見直し案</th></tr>
<tr><td></td><td>６－７　中山間地
（１）地域の概況</td><td>６－７　中山間地
（１）地域の概況</td></tr>
<tr><td>127</td><td>１）　地形・立地
本地域は、北陸自動車道より山側の丘陵地一帯で、前沢と田家地区の十二貫野台地上と東布施地区の布施川沿いの概ね 4,550ha である地域です。集落は、十二貫野台地上は新川育成牧場に連絡する道路沿いにあり、東布施地区は、布施川の洪水の影響が少ない山麓の道路沿いに位置します。</td><td>１）　地形・立地
本地域は、主に北陸自動車道から山側の丘陵地一帯で、前沢・田家地区の十二貫野台地と東布施地区のおおむね 5,840ha の地域です。十二貫野台地の集落は、くろべ牧場まきばの風に連絡する道路沿いにあり、東布施地区の集落は、布施川の洪水の影響が少ない山麓の道路沿いに位置します。</td></tr>
<tr><td>128</td><td>２）　歴史
十二貫野台地は、天保の飢饉(ききん)を機に、椎名道三により十二貫野用水が整備され、これにより安定した水が台地を潤し、農地として開拓されました。
東布施地区は、山岳部へ通じる地区として、山岳信仰の玄関口の役割を担ってきたとともに、薪炭生産など山間地の自然を活かした営みが育まれてきました。また、布施川の豊富な水を利用した水稲を中心とした農業も行われています。</td><td>２）　歴史
十二貫野台地は、天保の飢饉(ききん)を機に、椎名道三により十二貫野用水が整備され、安定した水が台地を潤し、農地として開拓されました。
東布施地区は、山岳部へ通じる地区として、山岳信仰の玄関口の役割を担ってきたとともに、薪炭生産など、山間地の自然を活かした営みが育まれてきました。また、布施川の豊富な水を利用した水稲を中心とした農業も行われています。</td></tr>
<tr><td>129</td><td>３）　人口・世帯数
生活の利便性を求めて他地域に流出する状況が見受けられ、地域の人口は年々減少しています。

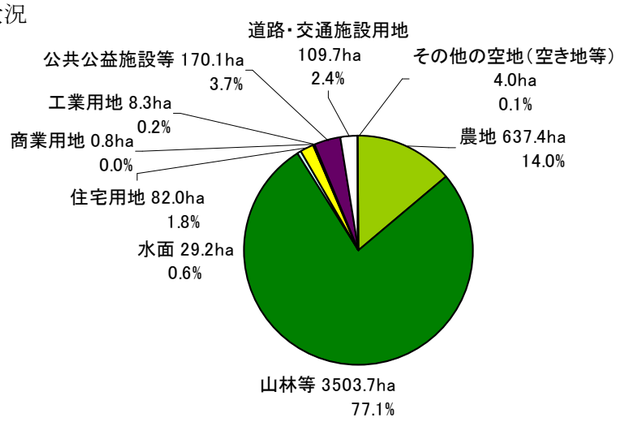
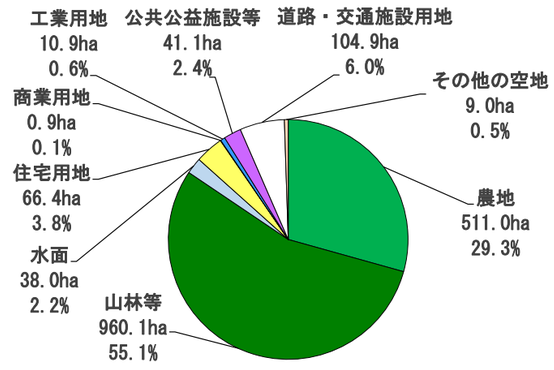
人口・世帯数等の推移
<table>
<tr><th></th><th>平成12年</th><th>平成17年</th></tr>
<tr><td>人口(人)</td><td>2,800</td><td>2,500</td></tr>
<tr><td>世帯数(世帯)</td><td>710</td><td>690</td></tr>
<tr><td>人口密度(人/ha)</td><td>0.6</td><td>0.5</td></tr>
<tr><td>平均世帯人員(人/世帯)</td><td>3.9</td><td>3.6</td></tr>
<tr><td>人口推移(H12=100)</td><td>100</td><td>90</td></tr>
</table>
年齢階層別人口割合(平成 17 年)


人口の推移及び推計・目標値

</td><td>３）　人口・世帯数
本地域では、人口、世帯数ともに減少していますが、人口の減少がより顕著であることから、平均世帯人員は減少しており、核家族化の進行がうかがえ、過疎化などが懸念されます。このほか、国立社会保障・人口問題研究所の令和５年の人口推計では、目標年次の令和 25 年に約 1,200 人まで減少することが予測されています。
令和２年の年齢階層別人口割合については、15 歳未満が 8.8%、65 歳以上が 38.0%となっており、本市平均と比べ、少子高齢化が進んでいます。

人口・世帯数等の推移
<table>
<tr><th></th><th>平成27年</th><th>令和２年</th></tr>
<tr><td>人口(人)</td><td>1,700</td><td>1,500</td></tr>
<tr><td>世帯数(世帯)</td><td>520</td><td>510</td></tr>
<tr><td>人口密度(人/ha)</td><td>0.3</td><td>0.3</td></tr>
<tr><td>平均世帯人員(人/世帯)</td><td>3.3</td><td>2.9</td></tr>
<tr><td>人口推移(H27=100)</td><td>100</td><td>88</td></tr>
</table>
年齢階層別人口割合(令和２年)


人口の推移及び推計・目標値


推計値：国立社会保障・人口問題研究所の人口推計（日本の地域別将来推計人口（令和５年推計））より算出
目標値：黒部市人口ビジョン（令和２年改訂版）の目標値を参考に算出</td></tr>
</table>

No	現　行	見直し案
130	４）　産業 農林業が中心ですが、近年、従事者の高齢化や減少、急勾配など耕作条件の悪さなどから、耕作放棄されている田や、手入れされずに荒廃した山林なども現れています。	４）　産業 農林業が中心ですが、近年、高齢化による従事者の減少や、急勾配などの耕作条件の悪さなどから、耕作放棄されている田や、手入れされずに荒廃した山林などが見られます。
131	５）　観光・交流 恵まれた自然環境を活かして体感型の交流が盛んとなっています。新川育成牧場は、グリーンツーリズムなどの体験メニューなども豊富で、都市などからの来訪者が農業やアイスクリームやバターなどの手作り体験等を楽しんでいます。	５）　観光・交流 くろべ牧場まきばの風では、アグリツーリズムなどの体験メニューも豊富で、来訪者がアイスクリームやバターの手作り体験のほか、動物とのふれあい体験等を楽しむなど、恵まれた自然環境を活かした交流が行われています。また、テレワークスペースを設置し、ワーケーションなどで市内を訪れたテレワーカーが快適に仕事ができる場所を提供します。
132	６）　交通 新川広域農道の開通や主要県道の改良により、本地域へのアクセスが容易になりました。なお、公共交通機関として本数は少ないものの、路線バスが運行されていますが、利用客が減少しており、路線の維持が厳しくなっています。また、前沢地区の山間部には公共交通機関がないため、移動手段が限られています。	６）　交通 市道山田浦山線や県道の改良など、地域の交通利便性を高める道路網が整備されています。 また、公共交通については、路線バス（池尻線）やデマンドタクシーが運行されていますが、利用者数は減少傾向を示しています。
133	７）　土地利用 大半が都市計画区域外で、集落の周辺は大部分が山林や農地などとなっています。 一部に、急傾斜地や砂防地などの地域指定がなされています。 公共施設としては宮野運動公園や新川育成牧場等のレクリエーション施設が立地しています。 豊かな自然が残る一方で工場用地や宅地造成などの開発に加え、廃棄物処理場の建設も行われており、今後開発行為の許可の対象とならない案件が立地する恐れもあります。 土地利用の状況  	７）　土地利用 本地域では、豊かな自然が残り、集落周辺は大部分が山林や農地となっています。 一部に、がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）、土石流及び地すべりに関する区域指定がなされています。 公共公益施設等としては、宮野運動公園やくろべ牧場まきばの風等のレクリエーション施設が立地しています。 土地利用の状況 
134	８）　自然・景観等 扇状地から里山を眺望する景観、逆に、丘陵の高台から望む扇状地や散居村の景観には、魅了されるものがあります。 一方、東布施地区では、布施川の自然景観と田園景観が良好な景観となっています。	８）　自然・景観等 扇状地からは、緑豊かな里山を眺望することができ、丘陵の高台からは、広がりのある扇状地や散居村を眺望することができます。 一方、東布施地区では、布施川の自然景観と田園景観が良好な景観となっています。

No 135

現　行

中山間地の主な施設・資源等

交通環境	【公共交通】地鉄バス（池尻線） 【道路網】県道福平石田線　県道中山田家新線 県道宇奈月大沢野線（東部山麓道路）　新川広域農道
主要施設	【公共施設】宮野運動公園　宮野墓地公園　新川育成牧場 嘉例沢森林公園　布施川ダム　大谷ダム 黒部市ふれあい交流館「あこや～の」 【その他の施設】十二貫野用水（疏水百選）宮野用水　山田新用水
地域資源	阿古屋野台地　僧ヶ岳　布施川
文化財	阿古屋野古墳　嘉例沢の石仏　白山社のウラジロガシ林
景観特性	日本海に沈む夕日（日本の夕陽百選）、 高台から望む黒部川扇状地の眺め　僧ヶ岳の雪形

見直し案

中山間地の主な施設・資源等

交通環境	【公共交通】路線バス（池尻線）　デマンドタクシー 【道路網】（主）宇奈月大沢野線　（一）福平石田線 （一）中山田家新線　東部山麓道路　（市）山田浦山線
主要施設	【公共施設】くろべ牧場まきばの風　嘉例沢森林公園 布施川ダム　大谷ダム　ふれあい交流館「あこや～の」 東布施トレーニングセンター 【公園・緑地】宮野運動公園　宮野墓地公園 【その他の施設】十二貫野用水（疏水百選）宮野用水　山田新用水
地域資源	阿古屋野台地　僧ヶ岳　布施川
文化財等	阿古屋野古墳　嘉例沢の石仏　白山社のウラジロガシ林
景観特性	日本海に沈む夕日（日本の夕陽百選） 高台から望む黒部川扇状地の眺め　僧ヶ岳の雪形

No 136

現　行

	強み	弱み
人口	・ 新川育成牧場などで自然体感型の交流が都市等と活発に行われています。	・ 市内でも人口減少の激しい地域です。
交通	・ 新川広域農道や県道などにより、地域へのアクセスが便利になりました。	・ 路線バスの維持が厳しくなっています。 ・ 公共交通機関がない地区もあります。
産業	・ 十二貫野用水の開発など、農業水利確保の貴重な歴史を有しています。	・ 耕作放棄地等が増加しています。
環境 ・景観	・ 里山の環境・景観が魅力的です。	・ 開発行為等が発生し、周辺環境への影響が懸念されます。

見直し案

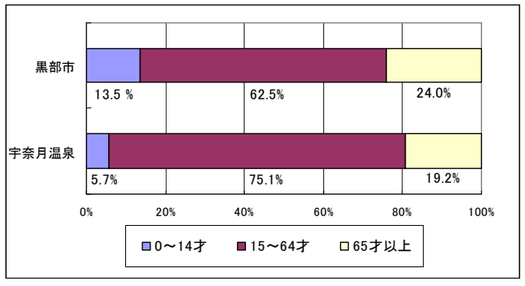
	強み	弱み
人口	―	・ 市内でも少子高齢化が進んでいる地域です。
交通	・ 地域の交通利便性を高める道路網が整備されています。	・ 池尻線、デマンドタクシーともに、利用者数は減少傾向を示しています。
観光 ・交流	・ 恵まれた自然環境を活かした交流が行われています。 ・ くろべ牧場まきばの風では、アグリツーリズムなどを体験することができます。	―
産業	・ 十二貫野用水の開発など、農業水利確保の貴重な歴史を有しています。	・ 耕作放棄地等が増加しています。
環境 ・景観	・ 緑豊かな里山の環境・景観を有しています。	―

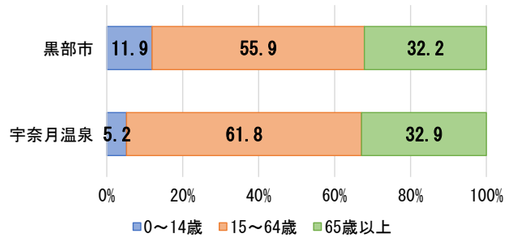
No	現　行	見直し案
	６－７　中山間地 （２）地域の問題点・課題	６－７　中山間地 （２）地域の問題点・課題
137	１）　人口 地域の活力を維持・向上する 生活の利便性を求めて、人口が他地域に流出する傾向が強くなっています。 このため、安心して暮らせる住みよい住環境を整え、地域人口の維持に努めるとともに、恵まれた自然環境を活用した都市等との交流を活発にするなどして、地域の活力を高めていくことが重要です。	１）　人口・交流 地域の活力を維持・向上する 生活の利便性を求めて、人口が他の地域に流出する傾向が強くなっています。 このため、安心して暮らせる住みよい住環境を整え、地域人口の維持に努めるとともに、恵まれた自然環境を活用した都市等との交流の促進などにより、地域の活力を高めていくことが必要です。
138	２）　交通 公共交通を確保する 中心市街地と東布施地区を結ぶ路線バスの維持が困難となっているほか、前沢地区の山間部には公共交通機関がないため、移動手段が限られています。 このため、採算性を確保することが困難な路線バスを維持するための支援や、新たな交通システムの導入など、公共交通の確保策を講じることが必要です。	２）　交通 公共交通を確保する 中心市街地と田家・東布施地区を結ぶ路線バス（池尻線）や、前沢・田家地区などで利用できるデマンドタクシーが運行されていますが、利用者数は減少傾向を示しています。 このため、これらの維持・活性化が喫緊の課題となっているほか、地域の実情にあった公共交通の検討が必要となっています。
139	３）　産業・環境・景観 農林業を振興し、開発行為に適切に対応する 農林業従事者の減少・高齢化や耕作条件の悪さなどから、耕作放棄地や荒廃山林が増加しています。 これらを防ぐために従事者の確保や農業生産への支援など、地域の農林業の振興を図る必要があります。 また、地域の大半が都市計画区域外ですが、開発行為等が発生している現状を踏まえ、優れた里山環境・景観を保全するために、各種法規制の導入も含めて、適切に対処していくことが必要です。	３）　産業・環境・景観 農林業を振興し、開発行為に適切に対応する 農林業従事者の減少や高齢化、耕作条件の悪さなどから、耕作放棄地や荒廃山林が増加しています。 これらを防ぐために、従事者の確保や農業生産への支援など、地域の農林業の振興を図る必要があります。 また、優れた里山環境・景観を保全するため、市民意識の啓発に努めるとともに、都市計画法等に基づきながら、開発行為に適切に対処していくことが必要です。

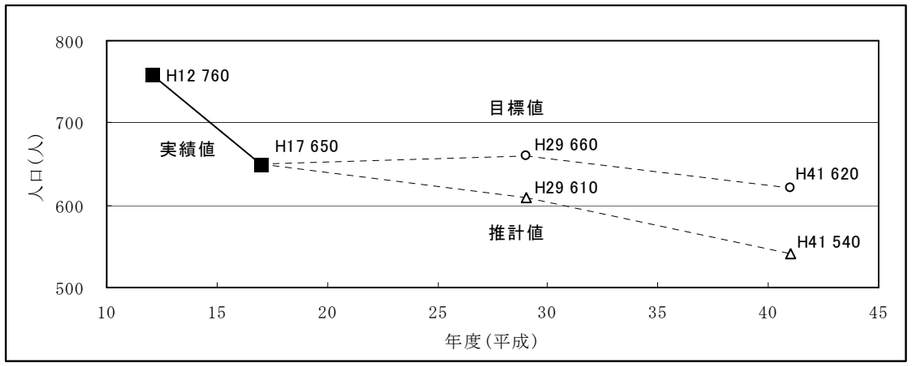
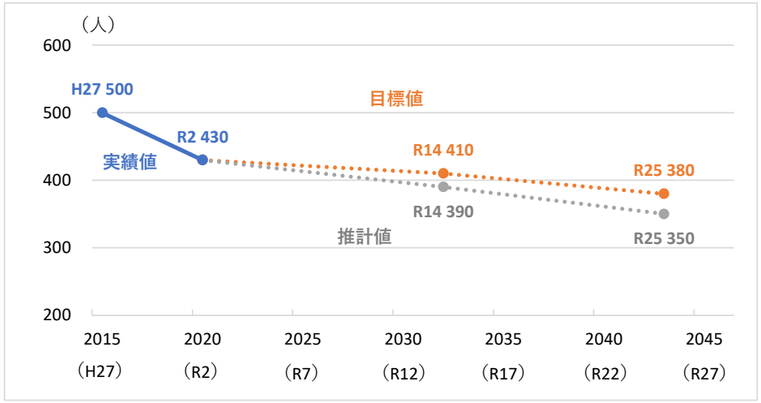
No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
	６－７　中山間地　（３）地域の将来像	**６－７　中山間地　（３）地域の将来像**	
140	≪活発な交流による元気な山里≫ 黒部川の水の恵みにより開拓された十二貫野台地は、緩やかな丘陵地に広がり、新川育成牧場と相まって美しい里山景観を見せています。また、布施川沿いに展開する東布施地区の集落は、独特の文化を育んでいます。 今後は、みどり豊かな里山風景と中山間地の地域文化を活かして、都市圏等との交流を促し、地域の振興を図ります。また、人口の流出防止に努めるとともに、地域の活力の維持向上に向けて、空き家や耕作放棄地、山林の荒廃への対策を講じることとします。	≪里山景観と中山間地の地域文化を活かした地域≫ 本地域では、黒部川の水の恵みと先人の知恵によって開拓された十二貫野台地が緩やかな丘陵地に広がり、くろべ牧場まきばの風と相まって、美しい里山景観を見せています。また、布施川沿いに展開する東布施地区の集落は、独特の文化を育んでいます。 今後は、緑豊かな里山景観と中山間地の地域文化を活かし、人口流出の抑止や地域の活力を維持するため、都市圏等との交流を促進するとともに、空き家や耕作放棄地の活用、山林の荒廃対策、公共交通の維持・活性化、防災対策などを講じます。	**【見直しの考え方】** ・全体構想及び以降の“まちづくりの方針”の内容を踏まえ修正・更新
	６－７　中山間地　（４）まちづくりの方針 １）都市と里山の交流による地域活力の維持・向上	**６－７　中山間地　（４）まちづくりの方針 １）自然環境を活かした交流の促進**	
141	丘陵山間地においても安心して暮らせる環境を築くため、急傾斜地や砂防指定地の防災対策を行うとともに、通信や道路等の基盤施設の整備に努めます。	丘陵山間地においても、安心して暮らせる環境を確保するため、緊急度の高い箇所を見極めながら、急傾斜地や砂防指定地の防災・減災対策を計画的に行うとともに、通信や道路等の基盤施設の整備に努めます。	**【問題点・課題】** ・豪雨に伴う甚大な被害が発生する前に、緊急度の高い箇所から計画的な実施が必要 **【見直しの考え方】** ・安全・安心な地域づくりに向けた内容の充足
142	中山間地の特徴である北アルプス連峰や農村の眺望、ゆとりある住宅地等の用地、自然あふれる環境などの特性を活かして、新たな里山居住の推進を模索していきます。	また、中山間地の特徴である北アルプスや農村の眺望、ゆとりある住宅地等の用地、自然豊かな環境などの特性を活かしながら、快適な里山の住環境を維持するとともに、適切な土地利用を推進します。	**【問題点・課題】** ・集落、担い手の高齢化等による農村環境の維持継続が必要 **【見直しの考え方】** ・里山の保全や適正な土地利用に向けた内容の充足
143	また、スローライフを求める定住・半定住者などの受け入れを促す施策として、グリーンツーリズムなどの実施を住民や事業者等と協力しながら、検討していきます。	さらに、スローライフを考えている人々の移住・定住を受け入れるため、「移住・人つなぎ支援センター」の活用や「黒部市空家・空地情報バンク」の利用促進による空き家の活用を進めます。 このほか、住民や事業者等と協力しながら、地域の魅力が体験できるメニューを用意するほか、グリーンツーリズム・アグリツーリズムなどを実施し、交流人口や関係人口の拡大を図ります。	**【問題点・課題】** ・定住・半定住の表現の見直しが必要 ・集落、担い手の高齢化等による農村環境の維持継続が必要 **【見直しの考え方】** ・移住・定住の促進に向けた内容の充足
	６－７　中山間地　（４）まちづくりの方針 ２）三日市市街地との連絡など地域間交通網の充実	**６－７　中山間地　（４）まちづくりの方針 ２）中心市街地との連絡など、地域間の道路・交通網の充実**	
144	沿線人口が少なく採算の確保が厳しいバス路線については、維持のための支援を検討します。	路線バス等については、地区自治振興会や運行事業者と連携を図りながら、利用者の利便性向上と運行の効率化を研究し、地域の実情にあった路線バス等の維持・確保に努めます。	**【問題点・課題】** ・沿線人口の減少、コロナ禍、燃料高騰等の社会情勢の変化により、運行経費への支援が増大 **【見直しの考え方】** ・公共交通の維持に向けた内容の充足
145	また、バスが通っていない地区においては、コミュニティ交通の導入など地域に適した交通対策を関係機関とともに研究します。	また、路線バス等が十分に確保されていない地区においては、事業者と地域住民の連携で生活の移動を支え合う「ノッカル」のような自家用有償旅客運送の導入を検討します。	**【問題点・課題】** ・利用者ニーズに対応した、恒常的な検証と見直しが必要 **【見直しの考え方】** ・公共交通の維持に向けた内容の充足

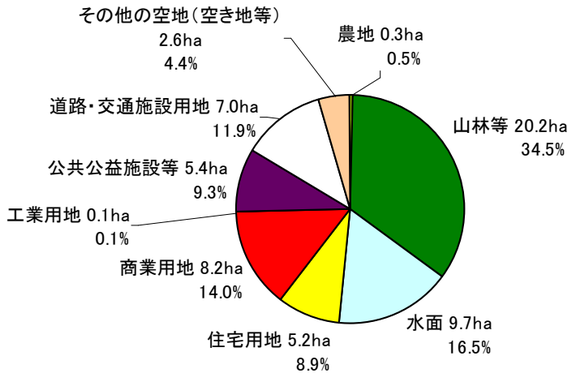
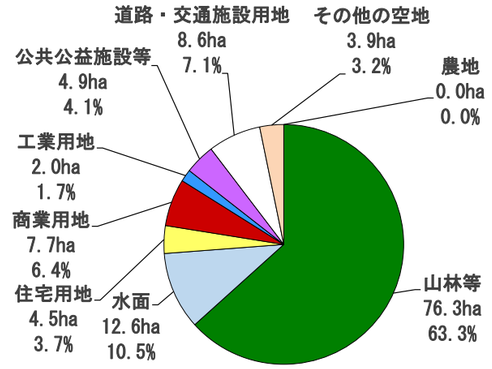
No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
	６－７　中山間地　（４）まちづくりの方針 ３）里山の再生・整備とみどりの森の再生	６－７　中山間地　（４）まちづくりの方針 ３）里山の再生・整備とみどりの森の再生	
146	都市計画区域に指定されていない里山の良好な自然環境や景観を保全していくため、自然生態系の保全と美化活動の推進に努めます。	里山の豊かで親しみやすい自然環境や景観を保全していくため、森林及び里山の整備と継続的な維持管理や治山事業などを推進し、多様な生態系の維持・保全と美化活動の推進に努めます。	**【問題点・課題】** ・地域住民の高齢化等による侵入防止柵や里山林の維持管理の継続等が必要 **【見直しの考え方】** ・里山の保全や適正な土地利用に向けた内容の充足
147	里山に受け継がれてきた農林業については、担い手の育成による後継者の確保や農作業が困難な土地での農業経営に対する支援などにより、農林業の維持振興に努めます。	また、里山に受け継がれてきた農林業については、集落や担い手の高齢化等に対応するため、担い手の育成による後継者の確保や農作業が困難な土地での農業経営に対する支援のほか、鳥獣対策などにより、安定的で持続的な農林業の生産環境の維持・向上を図ります。	**【問題点・課題】** ・集落、担い手の高齢化等による集落内での担い手確保が必要 **【見直しの考え方】** ・里山の保全や適正な土地利用に向けた内容の充足
148	また、自然が残る地域での人工的な構造物の規制、開発行為や産業廃棄物処理施設などの適正な立地を図るため、都市計画区域の見直しによる一部区域への編入や各種法規制の導入を検討するとともに、自然環境及び自然景観の保全に対する市民意識の高揚に努めます。	さらに、自然環境及び自然景観の保全に対する市民意識の啓発に努めるとともに、都市計画法等に基づきながら、開発行為に適切に対応します。	**【問題点・課題】** ・引き続き、自然環境及び自然景観の保全に対する市民意識の高揚が必要 **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、自然が残る地域での適正な立地誘導、自然環境及び自然景観の保全に対する市民意識の高揚

<table>
<tr><th>No</th><th>現　行</th><th>見直し案</th></tr>
<tr><td></td><td>６－８　宇奈月温泉
（１）地域の概況</td><td>６－８　宇奈月温泉
（１）地域の概況</td></tr>
<tr><td>149</td><td>１）　地形・立地
本地域は、黒部峡谷の入口に位置し、雄大な自然に囲まれた、概ね面積 50ha の宇奈月温泉街とその周辺地域です。地域内には、大規模な温泉旅館や多くの土産物店等が集積するほか、宇奈月国際会館セレネやスキー場、さらに周辺には緑豊かな自然や河川を活かした観光施設も立地しています。</td><td>１）　地形・立地
本地域は、黒部峡谷の入口に位置し、雄大な自然に囲まれた、おおむね 120ha の宇奈月温泉街とその周辺地域です。地域内には、大規模な温泉旅館や多くの土産物店等が集積するほか、宇奈月温泉総湯「湯めどころ宇奈月」、芸術創造センター「セレネ」及び宇奈月温泉スキー場が立地しています。また、周辺には、緑豊かな自然や河川を活かした観光施設も立地しています。</td></tr>
<tr><td>150</td><td>２）　歴史
大正時代の電源開発に伴い、温泉は大正 12 年に黒薙温泉から引湯して開かれ、現在では県内随一の規模を誇る温泉街にまで発展してきました。
この間、昭和２年には、北陸最古の「宇奈月温泉スキー場」が設けられ、昭和 28 年には、宇奈月・欅平間の鉄道営業が開始し、昭和 38 年には、黒部川第四発電所が竣工しています。
また、与謝野晶子、宮柊二などの歌人も多く訪れ、宇奈月公園などに歌碑が設置されています。</td><td>２）　歴史
宇奈月温泉は、大正時代の電源開発に伴い、大正 12 年に黒薙温泉から引湯して開かれ、現在では、県内随一の規模を誇る温泉街にまで発展してきました。
この間、昭和２年には、北陸最古の「宇奈月温泉スキー場」が設けられ、昭和 28 年には、宇奈月・欅平間の鉄道営業が開始し、昭和 38 年には、黒部川第四発電所が竣工しています。
また、与謝野晶子、宮柊二などの歌人も多く訪れ、宇奈月公園などに歌碑が設置されています。</td></tr>
<tr><td>151</td><td>３）　人口・世帯数
当地域の人口・世帯数は、小売店の廃業や旅館・ホテル従業員の削減、平地部などへの転出等により、市内で最大の減少率となっています。

人口・世帯数等の推移
<table>
<tr><th></th><th>平成12年</th><th>平成17年</th></tr>
<tr><td>人口(人)</td><td>760</td><td>650</td></tr>
<tr><td>世帯数(世帯)</td><td>490</td><td>420</td></tr>
<tr><td>人口密度(人/ha)</td><td>14.1</td><td>12.0</td></tr>
<tr><td>平均世帯人員(人/世帯)</td><td>1.6</td><td>1.5</td></tr>
<tr><td>人口推移(H12=100)</td><td>100</td><td>85</td></tr>
</table>
年齢階層別人口割合(平成 17 年)

</td><td>３）　人口・世帯数
本地域では、人口、世帯数ともに減少していますが、人口の減少がより顕著であるため、平均世帯人員は減少しており、核家族化の進行がうかがえます。また、人口の減少率が、他の地域と比較して最も顕著であるとともに、人口密度が低下しており、過疎化などが懸念されます。このほか、国立社会保障・人口問題研究所の令和５年の人口推計では、目標年次の令和 25 年に約 350 人まで減少することが予測されています。
令和２年の年齢階層別人口割合については、15 歳未満が 5.2%、65 歳以上が 32.9%であり、他地域と比較し、15 歳未満の割合が最も低く、少子化の進行が顕著となっています。

人口・世帯数等の推移
<table>
<tr><th></th><th>平成27年</th><th>令和２年</th></tr>
<tr><td>人口(人)</td><td>500</td><td>430</td></tr>
<tr><td>世帯数(世帯)</td><td>310</td><td>280</td></tr>
<tr><td>人口密度(人/ha)</td><td>4.2</td><td>3.6</td></tr>
<tr><td>平均世帯人員(人/世帯)</td><td>1.6</td><td>1.5</td></tr>
<tr><td>人口推移(H27=100)</td><td>100</td><td>86</td></tr>
</table>
年齢階層別人口割合(令和２年)

</td></tr>
</table>

No	現　行	見直し案
	人口の推移及び推計・目標値  	人口の推移及び推計・目標値  推計値：国立社会保障・人口問題研究所の人口推計（日本の地域別将来推計人口（令和５年推計））より算出 目標値：黒部市人口ビジョン（令和２年改訂版）の目標値を参考に算出
152	４）　産業 地域住民は、主に温泉街の諸施設に従事しており、サービス業や小売業が中心となっているほか、地域外へ通う住民も多く見られます。	４）　産業 地域住民は、主に温泉街の諸施設に従事しており、サービス業や小売業が中心となっています。
153	５）　観光・交流 温泉と黒部峡谷を主な目的として数多くの観光客が訪れ、市内・県東部の観光中心地となっており、近年では海外からの観光客の割合も増えています。しかし、観光客の総数では停滞傾向にあります。	５）　観光・交流 温泉と黒部峡谷を主な目的として数多くの観光客が訪れ、県東部の観光の中心地となっており、海外からの観光客の割合も増えています。 観光客の総数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時的に減少したものの、回復傾向にあります。 一方、黒部ダムと黒部峡谷鉄道欅平駅を結ぶ「黒部宇奈月キャニオンルート」の一般開放が今後予定されていることから、本地域でも観光・交流面での活性化が期待されます。
154	６）　交通 富山地方鉄道本線と黒部川に沿って走る主要地方道が、平野部・中心市街地と本地域を結ぶ幹線となっています。現在、整備中の北陸新幹線は、平成 26 年度末までに開業を迎える予定となっており、これによって、東京と宇奈月温泉が２時間あまりで結ばれることになります。	６）　交通 富山地方鉄道と（主）黒部宇奈月線が、平野部・中心市街地と本地域を結ぶ幹線となっています。 また、本地域と立山室堂を乗り換えなしで結ぶ観光路線バスが運行しています。
155	７）　土地利用 地域内は、温泉旅館や土産物店など商業的利用が中心となっており、周辺には清流・黒部川が流れるとともに、雄大な自然が広がっています。住宅は、旅館従業員用の共同住宅が多く、土産物店や飲食店等の店舗併用住宅が多いのも特徴です。 公益施設としては、郵便局、消防署、福祉センター、診療所などが立地し、宇奈月公園や想影公園が整備されています。 なお、用途地域は指定されておらず、建築形態規制は、建ぺい率 70%、容積率 400%となっています。	７）　土地利用 地域内は、温泉旅館や土産物店などの商業用地が中心となっており、周辺には、清流・黒部川が流れるなど、雄大な自然が広がっています。 また、住宅用地は、一般の住宅のほか、旅館従業員用の共同住宅、土産物店や飲食店等の店舗併用住宅が多いのも特徴です。 公共公益施設等としては、芸術創造センター「セレネ」、宇奈月温泉総湯「湯めどころ宇奈月」、宇奈月温泉スキー場などが立地しているほか、宇奈月公園や想影公園が整備されています。 なお、用途地域は指定されておらず、建築物の形態制限は、建ぺい率 60%・容積率 200%のほか、建ぺい率 70%・容積率 400%となっています。

<table>
<tr><th>No</th><th>現　行</th><th>見直し案</th></tr>
<tr><td></td><td>土地利用の状況

</td><td>土地利用の状況

</td></tr>
<tr><td>156</td><td>８）　自然・景観等
雄大な自然に囲まれた本地域は、四季の変化に富んだ温泉街となっています。
都市計画区域の指定のみで規制が弱いことも一因となって、土地利用の不整合や景観の混乱・悪化なども生じています。</td><td>８）　自然・景観等
雄大な自然に囲まれた本地域は、四季の変化に富んだ温泉街となっています。
一方、空き家、空き地及び空き店舗が増加しており、魅力的な温泉街の景観への影響が懸念されます。</td></tr>
<tr><td>157</td><td>宇奈月温泉の主な施設・資源等
<table><tr><td>交通環境</td><td>【公共交通】富山地方鉄道宇奈月温泉駅
【道路網】県道黒部宇奈月線　県道朝日宇奈月線</td></tr><tr><td>主要施設</td><td>【公共施設】宇奈月国際会館セレネ　宇奈月温泉スキー場　宇奈月公園
想影公園　宇奈月ダム　とちの湯
【その他の施設】黒部峡谷鉄道　宇奈月温泉街　発電所</td></tr><tr><td>地域資源</td><td>黒部峡谷（日本の秘境百選）宇奈月温泉</td></tr><tr><td>文化財</td><td></td></tr><tr><td>景観特性</td><td>温泉街のまちなみ</td></tr></table></td><td>宇奈月温泉の主な施設・資源等
<table><tr><td>交通環境</td><td>【公共交通】富山地方鉄道（宇奈月温泉駅）
観光路線バス「アルペンライナー」
【道路網】（主）黒部宇奈月線　（主）朝日宇奈月線</td></tr><tr><td>主要施設</td><td>【公共施設】芸術創造センター「セレネ」
宇奈月温泉総湯「湯めどころ宇奈月」　宇奈月温泉スキー場
宇奈月ダム　尾の沼体験交流施設とちの湯
【公園・緑地】宇奈月公園　想影公園　等
【その他の施設】黒部峡谷鉄道　宇奈月温泉街　発電所</td></tr><tr><td>地域資源</td><td>黒部峡谷（日本の秘境百選）　宇奈月温泉
黒部宇奈月キャニオンルート</td></tr><tr><td>景観特性</td><td>宇奈月温泉街のまちなみ</td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>No</th><th>現　行</th><th>見直し案</th></tr>
<tr><td>158</td><td>
<table>
<tr><th></th><th>強み</th><th>弱み</th></tr>
<tr><td>観光</td><td>・温泉は高温で、豊富な湯量を誇ります。
・大自然に抱かれた県内屈指の温泉街となっています。
・海外からの観光客が増加しています。</td><td>・観光客総数は長期的停滞・減少にあります。
・外国人観光客の来訪数に比べて、宿泊総数は伸びていません。</td></tr>
<tr><td>交流</td><td>・黒部峡谷、峡谷鉄道、温泉は国内だけでなく、海外でも知られてきています。</td><td>・個人旅行者や外国人観光客の受け入れ対応が、必ずしも十分ではありません。</td></tr>
<tr><td>人口</td><td>・コンパクトな市街地が形成されています。</td><td>・定住人口の流出率が市内最大となっています。</td></tr>
<tr><td>景観</td><td>・大自然の四季の変化は、温泉街に彩りを添えています。</td><td>・一部に土地利用の不整合や、温泉街に似つかわしくない景観なども見られます。</td></tr>
</table>
</td><td>
<table>
<tr><th></th><th>強み</th><th>弱み</th></tr>
<tr><td>観光</td><td>・温泉は高温で、豊富な湯量を誇ります。
・大自然に抱かれた県内屈指の温泉街となっています。
・海外からの観光客も増加しています。</td><td>・黒部峡谷鉄道が休止になる冬季には、観光客の落ち込みが生じています。</td></tr>
<tr><td>交流</td><td>・黒部峡谷鉄道及び宇奈月温泉は、国内だけでなく、海外からの利用も見られます。
・黒部宇奈月キャニオンルートの一般開放による地域の活性化が期待されます。</td><td>・個人旅行者や外国人観光客の受け入れ体制が、必ずしも十分ではありません。</td></tr>
<tr><td>人口</td><td>・コンパクトな市街地が形成されています。</td><td>・人口の減少率が、他の地域と比較し、最大となっています。</td></tr>
<tr><td>景観</td><td>・大自然の四季の変化が、温泉街の魅力の一つとなっています。</td><td>・空き家、空き地及び空き店舗が増加し、魅力的な温泉街の景観への影響が懸念されます。</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td></td><td>６－８　宇奈月温泉
（２）地域の問題点・課題</td><td>６－８　宇奈月温泉
（２）地域の問題点・課題</td></tr>
<tr><td>159</td><td>１）　観光・交流
観光産業の振興を図る
黒部峡谷鉄道の観光と宇奈月温泉の宿泊は、以前には大半が一体のものとなっていましたが、大型バス等による駆け足観光が増えた結果、周辺温泉地との競合とも相まって、温泉宿泊客が伸び悩んでいます。また、峡谷鉄道が休止になる冬季には観光客の落ち込みが生じています。
このため、従来のサービスやシステムを総合的に見直すとともに、恵まれた自然資源等の活用や広域的な連携などを強めることにより、観光へのニーズや行動様式の変化に対応しながら顧客満足度を向上させていくことが必要となっています。
その他、観光ニーズの多様化などから、連泊者など滞在型への対応や個人旅行者、外国人観光客の受け入れ体制の確保なども重要となっています。</td><td>１）　観光・交流
観光振興による温泉街の活性化を図る
以前から、黒部峡谷鉄道が休止になる冬季には、観光客の落ち込みが生じています。
また、旅の目的として重要な要素は「食」ですが、温泉街の飲食店不足が課題となっています。
温泉街の新たな魅力創出のため、黒部宇奈月キャニオンルートの開業効果を活かせるよう、電源開発の歴史や木管事件の舞台といった現場を活用し、地元住民によるガイドツアーの創設や食べ歩きができる飲食店等の充実が必要です。
そのほか、訪日外国人に対する情報発信として、雪と温泉などをアピールし冬期間の誘客促進を図ることが必要です。</td></tr>
<tr><td>160</td><td>２）　人口
人口の定着化を図る
温泉客の減少による従業員の削減、定住人口の地域外への転出等により、人口減少が続いていますが、観光客を地元住民が温かくもてなすためにも、地域の人口・世帯の維持・確保に努める必要があります。</td><td>２）　人口
人口の維持を図る
新側コロナウイルス感染症の影響により、宿泊者数が減少し、従業員の削減が行われたことなどから、温泉街の人口減少が続いています。
今後は、宿泊施設や観光施設での従業員の確保に努めるとともに、地域住民が観光客を温かくもてなすことができるよう、本地域の人口・世帯の維持に努めることが必要です。</td></tr>
</table>

No	現　行	見直し案
161	３）　景観 温泉街にふさわしいまちなみを創出する 　当地域で現在適用されている規制は、都市計画区域の指定のみで、計画的な土地利用や景観形成が図られていないため、温泉街の風情が感じられない箇所も見受けられます。 　このため、大自然と調和する宇奈月温泉らしいまちなみ景観を創りだすことにより、内外からの観光客を魅了することが重要です。	３）　景観 温泉街にふさわしいまちなみを創出する 　本地域では、空き家、空き地及び空き店舗が増加しており、魅力的な温泉街の景観への影響が懸念されます。 　このため、大自然と調和する宇奈月温泉の魅力的なまちなみ景観を形成するため、廃屋の撤去や宿泊施設の外壁改修などを進めることが必要です。

No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
	６－８　宇奈月温泉　（３）地域の将来像	６－８　宇奈月温泉　（３）地域の将来像	
162	≪大自然に抱かれてゆったりくつろげる国際的な温泉保養地≫ 「中部山岳国立公園」の山岳部と黒部峡谷の入口に位置し、国の内外からの集客を有する宇奈月温泉については、北アルプス連峰の大自然と調和した観光地として奥山に広がる雄大な自然の保全に努めるとともに、北陸新幹線開業による効果を十分に発揮し、様々な観光客に対応できる温泉保養地として受入体制を充実させるものとします。 併せて、市民の日常生活の拠点として、商業等各種生活サービスの充実等を進め、市街地人口の確保に努めます。	≪大自然に抱かれて、ゆったりくつろげる国際的な温泉地としての地域≫ 中部山岳国立公園・黒部峡谷の入口に位置し、国内外から観光客が訪れる宇奈月温泉については、北アルプスの大自然と調和した観光地として、奥山に広がる雄大な自然の保全に努めます。 また、北陸新幹線や黒部宇奈月キャニオンルートの効果を十分に発揮できるよう、様々な観光客に対応できる温泉地として受入体制を充実します。 さらに、地域住民の日常生活の拠点として、商業等各種生活サービスの充実を図り、地域人口の維持・確保に努めます。	**【見直しの考え方】** ・全体構想及び以降の“まちづくりの方針”の内容を踏まえ修正・更新
	６－８　宇奈月温泉　（４）まちづくりの方針 １）泊まりやすらぎ、歩き楽しめる温泉街の整備	６－８　宇奈月温泉　（４）まちづくりの方針 １）地域資源を活かし、多様な観光ニーズに対応した温泉街の形成	
163	様々な観光客に対応できる温泉保養地として、雄大な自然の保全・活用を図りながら、各種宿泊滞在プログラムを充実するとともに、黒部ＩＣ、新幹線新駅などからのアクセスや、にいかわ観光圏や氷見など主要観光地との連携を強めて、通年型の広域観光ルートの開発を促進します。	様々な観光客に対応できる温泉保養地として、雄大な自然の保全・活用を図りながら、各種宿泊滞在プログラムを充実するとともに、黒部ＩＣ、黒部宇奈月温泉駅などからのアクセス向上を図ります。 また、北陸新幹線や黒部宇奈月キャニオンルートの効果を最大限に活かすため、一般社団法人富山湾・黒部峡谷・越中にいかわ観光圏を構成する３市２町（黒部市・魚津市・滑川市・入善町・朝日町）による広域連携を強めて、通年型の広域観光ルートの開発を促進します。	**【問題点・課題】** ・黒部宇奈月キャニオンルートや北陸新幹線敦賀延伸に伴い長野県から福井県までの県をまたぐ広域連携が必要 **【見直しの考え方】** ・観光・交流の推進に向けた内容の充足
164	温泉街は、年間を通じて歩きたくなるまちを目指して、団体等と協働しながら空き店舗対策、飲食・休憩施設や文化施設の導入、融雪装置の整備など、回遊性を高める環境づくりを進めます。	さらに、芸術創造センター「セレネ」や宇奈月温泉総湯「湯めどころ宇奈月」を拠点とし、更なるにぎわい・交流の創出を図ります。 あわせて、年間を通じて安全で快適な道路空間を確保するため、無散水消雪施設の更新や維持管理を進めるとともに、地域住民や関係団体等と協働しながら、空き店舗対策、飲食・休憩施設等の立地誘導など、魅力ある街並みの形成と回遊性を高める環境づくりを進めます。	**【問題点・課題】** ・消雪装置は、機械除雪に比べて維持管理費用がかかることから、現在は、消雪装置の新規設置は原則行わず、老朽化した既存消雪装置のリフレッシュ工事を優先的に実施 **【見直しの考え方】** ・宇奈月温泉のにぎわい・交流の創出に向けた内容の充足、事業進捗を踏まえた表現に修正
165	また、観光客の多岐多様なニーズに対応するため、関係機関や団体と協働しながら案内板等における外国語表記の追加や施設・宿泊プログラムの充実などを図るとともに、周辺に立地するスポーツ・レクリエーション施設などの活用を促進します。	このほか、黒部峡谷鉄道の休業期間である冬季期間の誘客促進のため、アジア圏を中心としたインバウンド向けに、雪と露天風呂や宇奈月温泉スキー場でのアクティビティ体験など、関係機関や関係団体と協働しながら、温泉街の魅力創出を図ります。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、観光客の多岐多様なニーズに対応するための取組の実施

No	現　行	見直し案	現行計画の検証・評価
	６－８　宇奈月温泉　（４）まちづくりの方針 ２）生活関連施設の充実と地域コミュニティの醸成	６－８　宇奈月温泉　（４）まちづくりの方針 ２）生活関連施設の維持と地域コミュニティの醸成	
166	地域住民の多くが、旅館、土産物店、飲食店など観光に従事していることから、観光産業の振興に努めるとともに、公園や福祉施設など生活環境の整備に努め、人口の定着化を促します。	地域住民の多くが、旅館、土産物店、飲食店など観光に従事していることから、観光産業の振興に努めるとともに、湯のまち観光や山岳観光の入口部にふさわしい、利用者ニーズにあった公園施設整備の検討や地域住民の生活に必要な公共施設、生活利便施設の維持に努めます。	**【問題点・課題】** ・地元から公園環境の改善要望もあり、今後、検討が必要 ・公園施設の老朽化が進んでいるため、優先度や緊急度を適正に見極めながら、安全に利用できる環境維持が必要 **【見直しの考え方】** ・市民等が安全・安心で快適に利用できる公園・緑地等の機能充実に向けた内容の充足
167	また、観光客との交流促進などを通じて、地域への愛着心と誇りを醸成するとともに、空き家と温泉資源などを活用して、移住または半定住を促進する施策について、関係機関と連携しながら調査研究していきます。	また、地域住民が開催するイベントでの観光客との交流を通じて、地域住民の地域に対する愛着心と誇りを醸成します。 このほか、関係機関と連携しながら、「移住・人つなぎ支援センター」の活用や「黒部市空家・空地情報バンク」の利用を促進するとともに、温泉資源などを活用して、移住・定住の促進を図ります。	**【問題点・課題】** ・定住・半定住の表現の見直しが必要 **【見直しの考え方】** ・移住・定住の促進に向けた内容の充足
	６－８　宇奈月温泉　（４）まちづくりの方針 ３）温泉街や山岳観光の玄関口にふさわしい景観の整備	６－８　宇奈月温泉　（４）まちづくりの方針 ３）温泉街や山岳観光の玄関口にふさわしい景観の創出	
168	北アルプス連峰の大自然と調和した宇奈月温泉街ならではのまちなみを創出するため、地区住民や団体の意向を踏まえながら、地区計画や景観協定等の導入を検討するとともに、屋外広告物の規制や電線類の地中化、沿道緑化等を推進します。	北アルプスの大自然と調和した宇奈月温泉街ならではのまちなみを創出するため、地区住民や関係団体の意向を踏まえながら、景観法等の活用を検討するとともに、屋外広告物の規制や電線類の地中化、沿道緑化等を推進します。	**【問題点・課題】** ・地区計画導入の必要性について、検討が必要 **【見直しの考え方】** ・事業進捗や実現可能性を見据えた表現に修正
169	温泉街の周辺に広がる豊かな自然については、各種団体等と協働しながら環境・景観の保全に努めます。	また、温泉街の周辺に広がる豊かな自然については、関係団体等と協働しながら、環境・景観の保全に努めます。	**【問題点・課題】** ・特になし **【見直しの考え方】** ・今後も継続し、各種団体等と協働しながら環境・景観の保全